熊本県文化財調査報告第２６０集

山　下　遺　跡

国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

熊本県教育委員会

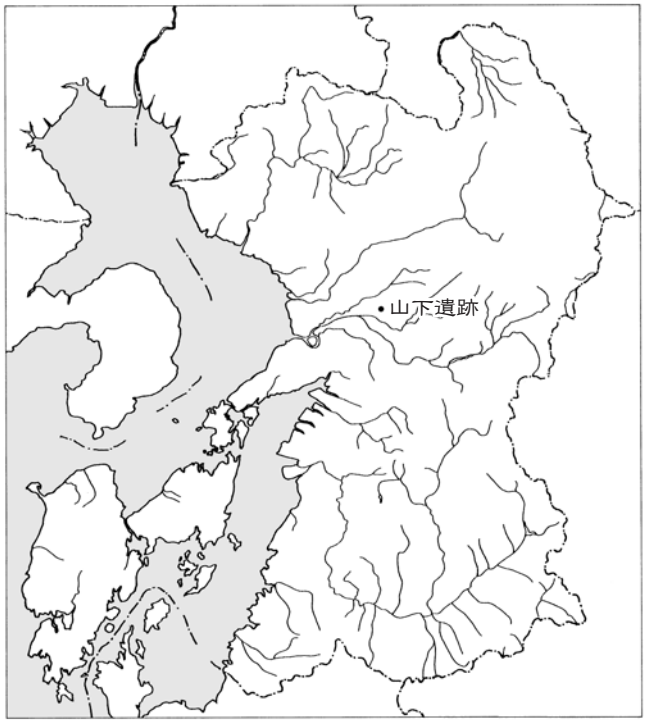
２０１１．３

Copyright by Board of Education,kumamoto Prefectural Office

熊本県文化財調査報告第２６０集

山　下　遺　跡

国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査



熊本県教育委員会

２０１１．３

山下遺跡遠景（東から）

序　　文

熊本県教育委員会では、平成２０年７月から９月までの約３ヶ月間、九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、上益城郡御船町大字高木所在の山下遺跡の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、中世のものと思われる掘立柱建物跡や溝跡、そして、当時の人々が生活の中で使用していた食器類が確認されました。

今回まとめました本報告書が県民の皆様を始め、多くの方々に活用され、文化財保護、ひいては地域の歴史に対する関心と理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の円滑な実施に御理解と御協力をいただいた地元の方々、並びに関係機関、そして調査に対する指導・助言をいただいた諸先生方に対して厚く御礼申し上げます。

平成２３年３月３１日

熊本県教育長　山本　隆生

例　　言

1　本書は、熊本県上益城郡御船町大字高木字下前田に所在する山下遺跡の発掘調査報告書である。

2　この調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の依頼を受け、九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う記録保存のための発掘調査として、平成２０年度に熊本県教育委員会が実施した。

3　現地での発掘調査は、第１章第２節に記す調査担当者が担当し、現地での遺構実測及び写真撮影も各調査担当者が行った。

4　現地での４級基準点及びメッシュ杭設置業務は株式会社九州文化財研究所、航空写真撮影業務は九州航空株式会社熊本営業所にそれぞれ委託した。

5　遺物の実測及び製図は、梅田亜耶が行った。

6　遺物写真撮影は、村田百合子、福浦晶子が行った。

7　本文の執筆は、坂井田端志郎が行った。

8　本書は、章、節、項で構成しており、各節の直接的な引用･参考文献については、各節末尾に記載した。本書全体に係る主要参考文献については、本文（第４章）末尾に一括して記載した。

9　発掘資料の整理は、第１章第２節に記す整理担当者が熊本県文化財資料室（熊本市城南町沈目１６６７）において行い、記録及び遺物の保管も同所で行っている。

10　本書の編集は、熊本県教育庁文化課で行い、坂井田、水上公誠、梅田が担当した。

凡　　例

1　調査区座標は、当初日本測地系であったものを、現地調査時に世界測地系（日本測地系 2000）に変換したものである。

2　本書に記した方位は、座標軸（世界測地系）を基準とした北を指している。また、本書で使用したレベルは、標高である。

3　遺構実測図は、現地において遺構配置図１/50、個別遺構図１/20 で作成したものを本書では、遺構配置図１/200、個別遺構図１/40 の縮尺で掲載している。

4　遺物の実測は、原寸で行い、本書ではそれらを土器実測図１/３、石器実測図１/３の縮尺で掲載している。なお、出土遺物の番号は、通し番号で１番から付している。

5　土色は「新版標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修による。

6　発掘遺構は、遺構の種別を示す以下の記号と、一連の番号の組み合わせにより表記した。

　ＳＡ（柵）、ＳＢ（掘立柱建物）、ＳＤ（溝）、ＳＫ（土坑）

本文目次

巻頭図版
序文
例言・凡例
目次

第１章　序章…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　発掘作業と整理等作業の体制…… 1
　第３節　発掘作業の経過…… 2
第２章　遺跡の位置と環境…… 4
　第１節　地理的環境…… 4
　第２節　歴史的環境…… 4
第３章　調査の方法と成果…… 11
　第１節　確認調査の概要…… 11
　第２節　調査の方法…… 11
　第３節　層序…… 11
　第４節　調査の成果…… 15
第４章　総括…… 26
写真図版
あとがき
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　山下遺跡と周辺の遺跡（1 /50000）…… 6
第 2 図　試掘・確認調査トレンチ位置図（1 /4000）及び土層断面図（1 /60）…… 10
第 3 図　調査区グリッド設定図（1 /400）…… 12
第 4 図　遺構配置図（1 /200）…… 13 ～ 14
第 5 図　掘立柱建物跡平面・断面図（1 /40）…… 16
第 6 図　柵跡平面・断面図１（1 /40）…… 17
第 7 図　柵跡平面・断面図２（1 /40）…… 18
第 8 図　溝状遺構平面・断面図（1 /40）…… 19
第 9 図　土坑跡平面・断面図（1 /40）…… 20
第 10 図　遺構内出土遺物実測図（1 / 3）…… 24
第 11 図　遺構外出土遺物実測図１（1 / 3）…… 24
第 12 図　遺構外出土遺物実測図２（1 / 3）…… 24

表目次

第１表　山下遺跡周辺遺跡一覧…… 7
第２表　試掘・確認調査トレンチ概要…… 11
第３表　掘立柱建物跡計測表…… 15
第４表　遺物観察表…… 25

巻頭図版

図版１　山下遺跡遠景（東から）

写真図版

図版１　発掘調査状況（南から北）
図版２　ＳＢ１、ＳＡ５完掘状況（北東から南西）
図版３　ＳＫ１・７・８完掘状況（西から東）
図版４　ＳＫ２完掘状況（北から南）
図版５　ＳＫ３完掘状況（北西から南東）
図版６　ＳＫ４完掘状況（北東から南西）
図版７　ＳＫ５完掘状況（北東から南西）
図版８　ＳＫ６完掘状況（北から南）
図版９　ＳＫ９完掘状況（南西から北東）
図版１０　ＳＫ１０完掘状況（南西から北東）
図版１１　ＳＫ１１完掘状況（北西から南東）
図版１２　ＳＫ１２完掘状況（西から東）
図版１３　調査区完掘状況（南東から北西）
図版１４　調査区完掘状況（北西から南東）
図版１５　調査区完掘状況（北西から南東）
図版１６　調査区完掘状況（北から南）
図版１７　ＳＫ１出土遺物①
図版１８　ＳＢ１出土遺物①
図版１９　Ｐｉｔ４７出土遺物①
図版２０　ＳＫ４出土遺物
図版２１　Ｐｉｔ５７出土遺物
図版２２　ＳＡ９出土遺物
図版２３　Ｐｉｔ３６出土遺物
図版２４　ＳＢ１出土遺物②
図版２５　Ｐｉｔ４７出土遺物②
図版２６　ＳＫ１出土遺物②
図版２７　ＳＫ１３出土遺物①
図版２８　Ｐｉｔ６出土遺物
図版２９　Ｐｉｔ７３出土遺物
図版３０　ＳＫ１３出土遺物②
図版３１　遺構外出土遺物①
図版３２　遺構外出土遺物②
図版３３　遺構外出土遺物③
図版３４　ＳＢ１出土遺物③
図版３５　遺構外出土遺物④
図版３６　遺構外出土遺物⑤
図版３７　遺構外出土遺物⑥
図版３８　ＳＫ１３出土遺物③
図版３９　遺構外出土遺物⑦
図版４０　Ｐｉｔ５８出土遺物
図版４１　ＳＫ１０出土遺物
図版４２　ＳＫ９出土遺物
図版４３　遺構外出土遺物⑧
図版４４　遺構外出土遺物⑨

第１章　序章

第１節　調査に至る経緯

熊本県教育委員会は、九州横断自動車道延岡線建設工事に伴い平成 19 年２月 28 日付け国九整熊工事第 59 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から「埋蔵文化財の予備調査について（依頼）」の提出を受け、同年 12 月 12 日から 17 日にかけて、山下遺跡とその周辺で埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施した。

試掘・確認調査の結果、埋蔵文化財の存在を確認したため、平成 20 年１月 16 日付け教文第 2390 号「九州横断自動車道延岡線事業に伴う埋蔵文化財試掘調査について（通知）」で熊本河川国道事務所長に対して、調査成果と発掘調査の必要性を通知した。

その後、延岡線建設予定地について、平成 20 年２月 13 日付け国九整熊工事第 115 号で文化財保護法第 94 条第１項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」が熊本河川国道事務所長から御船町教育委員会を経由して熊本県教育委員会に通知された。

熊本県教育委員会では、熊本河川国道事務所と記録保存を目的とした発掘調査の期日等の協議を進めた。平成 20 年５月 19 日付け国九整熊工第９号「埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」で熊本河川国道事務所から発掘調査の依頼と承諾書の提出を受け、平成 20 年６月 16 日付け教文第 661 号で文化財保護法第 99 条第１項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し、発掘調査を開始することとした。

記録保存のための発掘調査は、平成 20 年７月１日に開始し、平成 20 年９月 25 日に終了した。調査終了後、平成 20 年９月 30 日付け教文第 1549 号で文化財保護法第 100 条第１項の規定に基づく「文化財の発見について（通知）」を御船警察署長に提出した。

整理・報告書作成作業は、平成 22 年４月１日から開始し、平成 23 年３月 31 日に終了した。

第２節　発掘作業と整理等作業の体制

１　発掘作業及び整理作業の体制

（１）予備調査（平成 19 年度）

調査主体　　熊本県教育委員会
調査責任者　梶野　英二（文化課長）
調査総括　　江本　直　（課長補佐）
　　髙木　正文（課長補佐・文化財調査第一係担当）
調査事務局　宗村　士郎（教育審議員兼課長補佐）
　　高宮　優美（主幹兼総務係長）、塚原　健一（参事）、高松　克行（主任主事）
調査担当　　坂口　圭太郎（参事）
　　水上　正孝（文化財保護主事）
　　遠山　宏　（非常勤職員）
　　横田　光智（非常勤職員）

（２）本調査（平成 20 年度）

調査主体　　熊本県教育委員会
調査責任者　米岡　正治（文化課長）
調査総括　　江本　直　（課長補佐）
　　髙木　正文（課長補佐・文化財調査第一係担当）

調査事務局　宗村　士郎（教育審議員兼課長補佐）
川上　勝美（主幹兼総務係長）、山田　京子（参事）、高松　克行（主任主事）
調査担当　坂井田　端志郎（主任学芸員）
坂本　亜矢子（非常勤職員）
島浦　健生（非常勤職員）

（３）整理作業（平成 22 年度）
整理主体　熊本県教育委員会
整理責任者　小田　信也（文化課長）
整理総括　木﨑　康弘（課長補佐）
村崎　孝宏（文化財調査第一係長）
坂田　和弘（参事・文化財資料室長）
整理事務局　宗村　士郎（教育審議員兼課長補佐）
元嶋　茂　（課長補佐・総務係担当）、山田　京子（参事）、松島　英治（主任主事）
整理担当　坂井田　端志郎（主任学芸員）
水上　公誠（文化財保護主事）
梅田　亜耶（非常勤職員）

２　謝辞

現地での発掘調査及び整理作業においては、下記の機関及び多くの方々からご指導ご協力をいただきました。ここにそのご芳名を記して深く感謝の意を表します。（順不同、敬称略）
地元の方々、美濃口雅朗、金田一精、林田和人、増田　圭（熊本市教育委員会）、西日本高速道路株式会社熊本高速道路事務所、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所、御船町教育委員会

第３節　発掘作業の経過

発掘調査は、まず調査区南東側から北西側に向かって重機により表土を除去した。調査区への重機の進入路の確保がままならず、0.2㎥の重機を２台使用して行った。その後、株式会社九州文化財研究所に委託し、４級基準点と調査区内にメッシュ杭を設置した。メッシュ杭の設定区画は５ｍ×５ｍである。

過去の造成や耕作により遺物包含層は残っておらず、表土除去終了後、直ちに遺構検出作業を行った。検出作業終了後、簡易な遺構配置図を作成し、順次遺構掘削を行い、平面図・断面図の作成作業、遺物取り上げ、写真撮影を行った。グリッドは東西方向（西から東へ）をアルファベット、南北方向（北から南へ）を数字で示した。なお、平面直角座標は、日本測地系の数値を世界測地系に変換し使用している。

発掘調査は、平成 20 年７月より開始し、平成 20 年９月に終了した。試掘・確認調査の結果から、面積に比して遺構密度が低いため、当初は調査期間が短期間であっても十分終了できると考えていた。しかし、作業員が予想以上に集まらなかったこと、あまりの酷暑に体力の消耗が激しく、想定以上に作業が進まなかったことから、調査の予定期間ぎりぎりに終了することとなった。

その間の経過は次のとおりである（調査日誌より抜粋）。

【平成 20 年７月】
１日　調査区の設定を行う。

4日　表土剥ぎ開始。重機により調査区北東側にトレンチを入れて遺構面を確認しながら層位の確認を行う。
7日　引き続き表土剥ぎを行う（～7月14日まで）。前日に梅雨明け。快晴であった。
15日　プレハブ事務所設置。
22日　作業員が入り、本格的に発掘調査開始。余りの酷暑に、作業員2名が午前中でダウン。頻繁に休憩を取りながら調査を進めた。
23日　重機による表土剥ぎで取りきれなかった箇所の掘削が終了。遺構の検出作業に入る。
24日　直径15～20cm前後、黒色の覆土のピットの検出が相次ぐ。覆土の土色、出土遺物の様相から中世の可能性がある。文化課坂田参事来跡。委託先の九州文化財研究所が4級基準点測量及びメッシュ杭設置作業を開始する（7月28日まで）。
29日　調査区南側の遺構検出作業が終了。北側の検出作業に入る。南側に比べて遺構密度が高くなる。文化課髙木課長補佐、坂口参事来跡。
30日　作業員増員（杉浦さん、森上さんが合流）。ピットの検出が相次ぐが、掘立柱建物にならない。土師器片はトロトロになった状態で出土する。少人数、酷暑、ピット数の多さから少しでも掘削時間を確保したいため、焦り始める。
31日　作業員増員（上野さんが合流）。ピットの検出が続く。文化課遠山氏来跡。

【平成20年8月】
1日　遺構検出作業の3/4が終了。大形土坑、溝状遺構を検出する。文化課坂口参事来跡。
4日　遺構検出作業が終了。
5日　調査区北側からピットの掘削作業開始。当初は、段下げ後に半裁、完掘の予定であったが、調査期間確保のため半裁、完掘に調査方法を変更。
7日　ピットの半裁を継続。ピット覆土からは摩滅した中世の土師器皿の出土が多い。
12日　調査区北側ピットの半裁を終える。翌日からお盆休み。
18日　調査再開。ピットの完掘を開始する。遺構実測作業も開始する。昼過ぎに豪雨。文化課宮崎参事来跡。
20日　文化課髙木補佐来跡。
21日　国土交通省熊本河川国道事務所来跡。北側のピットの完掘は3/4が終了。
25日　北側のピットの完掘はほぼ終了。
26日　溝状遺構の掘削を開始する。
27日　掘削作業と遺構実測を併行して行う。文化課牛島氏来跡。
29日　遺構密度の低い、南側で写真前清掃を行う。直ちに調査区南側完掘状況写真撮影。文化課髙木補佐来跡。

【平成20年9月】
1日　調査区北側の写真前清掃を行う。
2日　清掃中に遺構の見落としを発見。文化課廣田参事来跡。
3日　写真前清掃が終了。調査区北側完掘状況写真撮影。
4日　遺構完掘写真の撮影を行う。掘り残しのあった遺構の完掘を行う。
5日　遺構実測を残し、発掘調査が終了。作業員さんとの別れを惜しむ。
9日　遺構実測継続。文化課長、審議員、髙木補佐、西住主幹、川上主幹、廣田参事、坂口参事来跡。
11日　調査機材を文化財資料室に搬入。
12日　プレハブ事務所撤去。
25日　遺構実測作業終了。現地での発掘調査終了。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

山下遺跡が所在する熊本県御船町は、北緯 32 度 42 分、東経 130 度 48 分に位置する。東西約 20km、南北約 10km、面積は約 99㎢を測る。熊本県のほぼ中央にあり、行政域としては上益城郡に属し、その西部（ほぼ中央）に位置している。

古くから上益城郡内の政治・経済・文化の中心として栄えてきた。北は上益城郡益城町、東北は阿蘇郡西原村、北西は上益城郡嘉島町、西は熊本市、南西は上益城郡甲佐町、南は下益城郡美里町、東は上益城郡山都町と接している。

本遺跡の西側には、益城町から八代郡氷川町へと至る国道 443 号線が縦走しており、熊本市から人吉市に至る国道 445 号線と交差する辺田見交差点付近では、近年開発が急ピッチで進んでいる。

本遺跡は、熊本県地質図によると御船層群上層部から中位段丘堆積物託麻砂礫層上の境界付近に立地しており、標高は約 34 m～ 35 mを測る。遺跡からは、山塊が船底の形をした船野山（307.8 m）や、熊本県内では金峰山との昔話でよく知られ、飯田山常楽寺が山上にある飯田山（481.2 m）を望むことができる。

第２節　歴史的環境

（１）旧石器時代

山下遺跡周辺では、旧石器を調査目的とした発掘調査により出土したものはない。しかし、表面採集により旧石器は見つかっており、御船町木倉で石核が、御船町樺迫でナイフがそれぞれ表面採集されている。また、本遺跡の 1 km 北西に位置する益城町塔平遺跡では、かつて細石器・スクレイパー・剥片・礫器が表面採集されている。

（２）縄文時代

遺跡周辺には、縄文時代の遺跡が早期から晩期まで数多く存在している。

熊本県内には宇土市の轟貝塚、曾畑貝塚、熊本市の阿高貝塚、御領貝塚、黒橋貝塚、沼山津貝塚、渡鹿貝塚、嘉島町のカキワラ貝塚、甘木貝塚といった多くの貝塚が存在している。山下遺跡が所在する御船町内では、辺田見下鶴に辺田見貝塚がある。昭和 30 年頃までは、畑や人家に貝が散らばっていたとされるが、今はほとんどみられないという。

山下遺跡周辺で発掘調査された遺跡では、益城町櫛島遺跡がある。山下遺跡の北西 2 km に位置する櫛島遺跡は、昭和 47 ～ 48 年に九州縦貫自動車道建設に伴い発掘調査され、早期押型文土器や塞ノ神式土器が出土している。石蒸し料理をした跡と考えられる集石遺構や長楕円形の炉跡がヒトデの様な形で重なって検出されている。また、近年発掘調査された遺跡では、国道 445 号線のバイパス建設工事に伴い、熊本県教育委員会によって平成 20 年に調査された辺田見中道遺跡がある。辺田見中道遺跡からは、晩期の竪穴住居跡と考えられる竪穴状の遺構や埋甕が複数検出されている。

（３）弥生時代

御船町内には、弥生時代とされる遺跡は数多く存在している。しかし、発掘調査されている遺跡は意外と少ない。御船町豊秋久保遺跡で弥生時代前期の住居跡が発見されている。見つかった住居跡は竪穴住居跡と考えられたが、全体の形はよくわからなかったという。

山下遺跡周辺で発掘調査された遺跡では、サントリービール工場建設に伴い発掘調査された嘉島町二子塚

遺跡が県内を代表する遺跡である。弥生時代後期の環濠集落として知られており、環濠内の竪穴住居跡が多数調査されている。また、昭和 42 年に工場誘致に伴って発掘調査された益城町秋永遺跡では、弥生時代中期の甕棺、後期の断面Ｖ字状の溝状遺構や竪穴住居跡が検出されている。近年発掘調査された遺跡では、九州縦貫自動車道嘉島ジャンクション建設工事に伴い、平成 20 年から平成 22 年にかけて熊本県教育委員会により調査された益城町塔平遺跡がある。塔平遺跡からは弥生時代後期の竪穴住居跡が数多く見つかっている。内部にベッド状遺構を持つ竪穴住居跡からは、免田式土器を含む後期の土器が甕形土器を中心に多量に出土している。近くに立地する二子塚遺跡との関係について、今後の報告に期待したい。

（４）古墳時代

山下遺跡が所在する御船町内には 20 数基の古墳が確認されている。御船町豊秋の秋只古墳群は、昭和 48 年に九州縦貫自動車道建設工事に伴って発掘調査された。前方後円墳である長塚古墳、円墳である帰帆山古墳、箱式石棺９基、壺棺が発掘調査されている。５世紀代から６世紀代の古墳群である。また、町内では江戸時代に記された『肥後國誌』の記事が該当すると考えられている今城大塚古墳が知られている。前方後円墳と思われる本古墳は、装飾古墳として知られ、横穴式石室内からは、盾や円文の装飾が見つかっている。

山下遺跡の１km 北西には、昭和 47 年に養豚場堆肥置場の造成の際に発見された塔の平石棺がある。調査されていないため詳細は不明だが、前期の石棺と考えられている。その 300 m北西には鬼塚古墳がある。２基の円墳で後期のものと考えられている。昭和 40 年頃の圃場整備により埋没してしまった。

集落遺跡としては、熊本市から人吉市に至る国道 445 号線のバイパス建設工事に伴い新たに見つかり、熊本県教育委員会により平成 21 年度から発掘調査されている滝川石田遺跡がある。

（５）古代

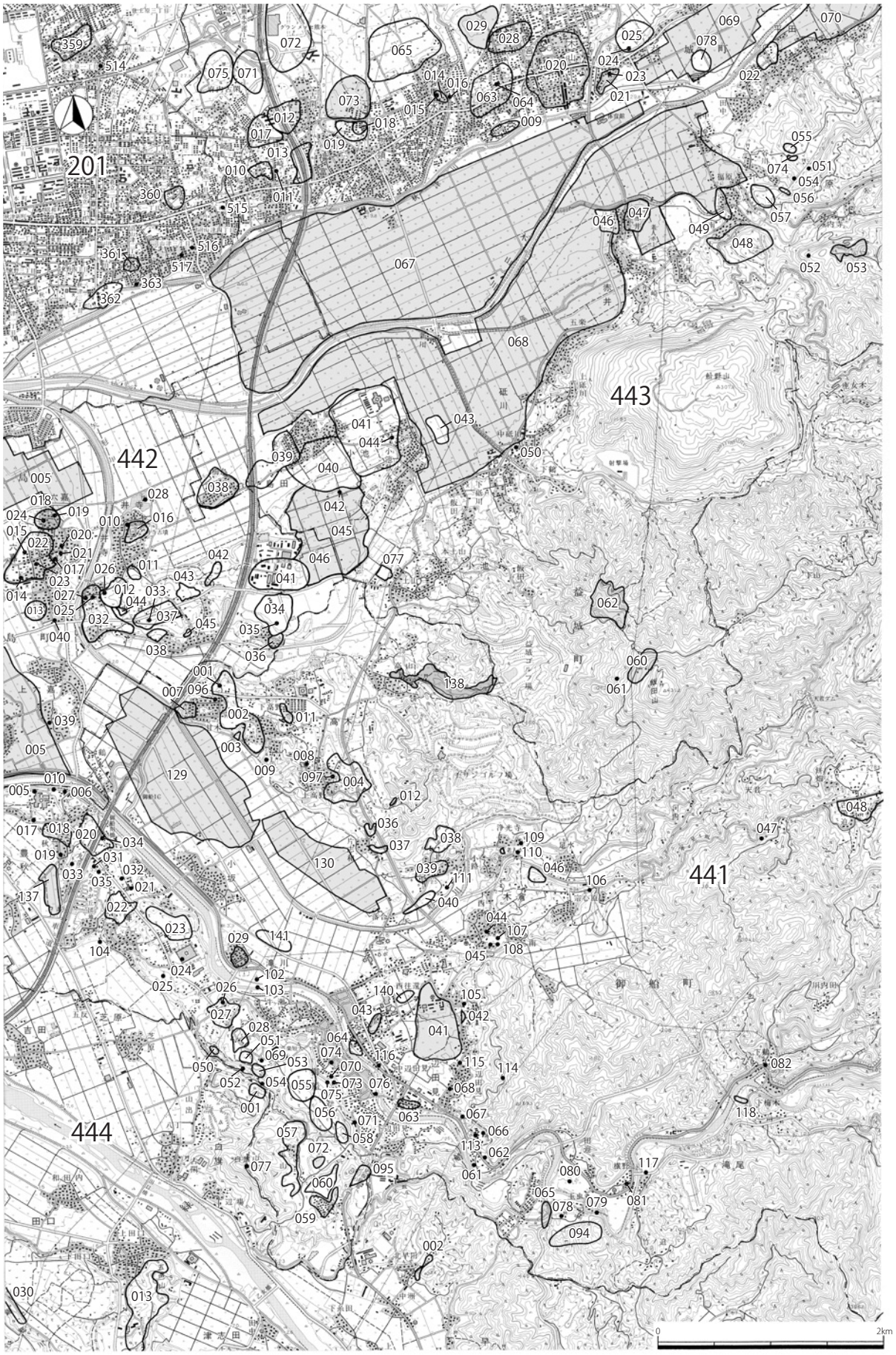
山下遺跡周辺で発掘調査された古代の遺跡は、前述の嘉島町二子塚遺跡と益城町塔平遺跡がある。

二子塚遺跡からは、18 棟の掘立柱建物跡と３条の柵列が検出されている。塔平遺跡からは、カマド付きの小形の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が複数検出されている。また、本遺跡が所在する御船町高木は、周辺の木倉・御船原台地と同じく古代末期・中世期は甘木荘として荘園化されたとされている。

本遺跡の東側に位置する飯田山上には、飯田山常楽寺がある。天台宗の末寺で、益城・御船地方の名刹である。諸説あるが、『元享釈書』には「飯田の真俊」の名があり、真俊が常楽寺の開山と一般的に言われている。真俊の弟子・俊芿は、仁安元年（1166）、肥後国益城郡甘木荘で生まれ、後の京都泉湧寺を実質的に開山したとされる月輪大師・俊芿（がちりんだいし・しゅんじょう）である。常楽寺からは、以前調査で寺域から布目瓦が採集されているため、現在の境内のどこかに瓦葺の本堂があったと考えられている。

【引用・参考文献】

嘉島町　1989 『嘉島町誌』
熊本県教育委員会編　1999 『古閑北遺跡』
熊本県教育委員会編　1999 『古閑北・梨木遺跡』
熊本県地質図編纂委員会編　2008 『熊本県地質図（10 万分の１）』
益城町　1990 『益城町史　通史編』
益城町教育委員会編　2010 『小柳遺跡』
御船町　2007 『御船町史』



第１図　山下遺跡と周辺の遺跡（1/50000）

第１表　山下遺跡周辺遺跡一覧

熊本県（43）御船町（441）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
001	甘木貝塚	甘木（通称甘木）	縄文	貝塚		縄文遺物包含
002	甘木	甘木（通称甘木）	縄文	包蔵地		縄文中後期土器・土師器・須恵器
003	天神原	高木　西の原	弥生	包蔵地		弥生、土師器・須恵器
004	高野原	高木　吹上	弥生	包蔵地		弥生・土師器・須恵器
005	御所塚古墳	豊秋　東原	古墳	古墳		
006	城塚古墳	豊秋　吹上	古墳	古墳		別名禀瓜塚
007	甘木城跡	甘木　北屋敷	中世	城		中世城跡
008	菅原神社板碑	下高野	中世	石造物		線刻弥陀三尊、永正 17 年大永追刻あり
009	安養寺跡	高木（通称下高野）	中世	寺社		
010	城塚	豊秋　東原	中世	城		中世城跡
011	つづの山	高木（通称下高野）	中世	経塚		
012	善助山窯跡	御船	古代・中世	生産		
017	二子塚古墳	豊秋　吹上	古墳	古墳		
018	久保（秋只）	豊秋　久保	縄文～古墳	包蔵地		
019	秋只古墳	豊秋　久保	古墳	古墳		土師器・須恵器
020	秋只古墳群	小坂　久保ほか	古墳	埋葬		箱式石棺主体
021	小坂大塚古墳	小坂　下原	古墳	埋葬	町	玉類出土
022	植木原	陣　植木原	古墳	埋葬		土師器・須恵器
023	小坂中原	小坂　中原	弥生	包蔵地		弥生中期土器・土師器・蔵骨器
024	魂塚古墳	陣　宮園	古墳	古墳		
025	京塚古墳	陣　京徳	古墳	古墳		
026	今城大塚古墳	滝川　大塚	古墳	古墳	町	須恵器
027	大塚	滝川　大塚	弥生	包蔵地		弥生後期土器
028	滝川中原	滝川　中原	弥生	包蔵地		弥生中期土器
029	平瀬城跡（今城跡）	滝川	中世	城		
031	秋只の四方仏塔	豊秋　秋只	中世	石造物	町	
032	豊秋西原石棺	豊秋　西原	古墳	埋葬		
033	帰帆山古墳	豊秋　山後	古墳	古墳		
034	長塚古墳	豊秋　久保	古墳	古墳		
035	山後石棺群	豊秋　秋只	古墳	埋葬		
036	片志和横穴群 A	木倉　片志和	古墳	古墳		
037	片志和横穴群 B	木倉　片志和	古墳	古墳		
038	上の原	木倉（通称宗心宗）	古墳	包蔵地		土師器・須恵器
039	鶴亀	木倉　鶴亀	弥生	包蔵地		弥生土器
040	落合横穴群	木倉　片志和	古墳	古墳		
041	御船高校	木倉　南木倉	古代・中世	包蔵地		瓦器
042	木倉観音院	木倉　南木倉	古代・中世	包蔵地		瓦器
043	御船古城跡	御船　下囲	中世	城	町	
044	西木倉六地蔵	木倉西	中世	石造物		
045	甲斐宗運の墓	木倉南	中世	墓	町	永寿寺内にあり
046	木倉・西原の箱式石棺群	木倉　西原	古墳	埋葬		
047	郡見坂古墳	木倉　郡見坂	古墳	古墳		
048	古閑の原	上野　古閑の原	縄文	包蔵地		鉄鏃、縄文
050	滝川岩屋堂横穴	滝川　岩屋堂	古墳	古墳		
051	南原	滝川　南原	縄文・弥生	包蔵地		縄文早期土器・弥生土器
052	岩屋堂 B 横穴群	御船　下岩屋堂	古墳	古墳		
053	岩屋堂 B	御船　下岩屋堂	縄文	包蔵地		縄文後期土器
054	岩屋堂 A 横穴群	御船　下・上岩谷堂	古墳	古墳		人骨
055	下山神	御船　下山神	弥生	包蔵地		弥生後期土器
056	岩屋堂 A	御船　上岩屋堂	縄文・弥生	包蔵地		縄文晩期土器・弥生後期土器
057	下瓜山	御船　下瓜山	弥生～古代	包蔵地		
058	中山神	御船　中山神	縄文	包蔵地		縄文晩期土器・石斧
059	上瓜山	御船　上瓜山	縄文	包蔵地		縄文晩期土器・土師器・須恵器
060	上山神	御船　上山神	弥生	包蔵地		弥生後期土器
061	東禅寺第 2 号古墳	辺田見　東禅寺	古墳	古墳		
062	東禅寺第 1 号古墳	辺田見　東禅寺	古墳	古墳		須恵器・金冠
063	辺田見貝塚	辺田見　下鶴	古墳	貝塚		縄文中後期土器
064	六丁目	辺田見　上囲	弥生	包蔵地		弥生土器
065	玉虫経塚群	滝尾　玉虫	中世	経塚		
066	阿部家の墓	辺田見	近世	墓地		
067	光永平蔵の墓	辺田見	近代	墓		
068	木倉手永会所跡	辺田見　上辺田見	近世	包蔵地		移転（佐久間氏宅）
069	相良塚	滝川	中世	墳墓		
070	熊本隊士の墓	下辺田見	近代	墓	町	（十五戦士の墓）
071	熊本諸隊奮戦の地碑	御船一丁目	近代	石造物		
072	盗人塚山	辺田見	縄文～中世	包蔵地		
073	眺世庵跡	御船三丁目	中世	包蔵地		片山
074	御船県庁跡	御船五丁目	近代	包蔵地		保育園
075	肥後藩大砲鋳造所跡	御船（通称法光寺）	近世	生産		
076	辺田見眼鏡橋跡	辺田見　下鶴	近世	包蔵地		昭和 63 年 5 月 3 日流失　基礎部分残存
077	白旗山墓地群	御船　上瓜山	近代	墓地		

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
078	玉虫の如法塚経塔	滝尾　玉虫	中世	石造物	町	
079	玉虫寺跡	滝尾	中世	寺社		
080	玉虫六地蔵	滝尾	中世	石造物		
081	横野の板碑	滝尾　横野	中世	石造物		光明真言（延文４年）
082	下鶴眼鏡橋	滝尾　下鶴	近世	建造物	町	
094	玉虫	玉虫	古墳～古代	包蔵地		
095	妙見坂	辺田見　下辺田見	弥生～古代	包蔵地		
096	甘木地蔵堂の板碑	高木　甘木	中世	石造物		阿弥陀来迎像
097	年尾神社の板碑	高木　上高野	中世	石造物		阿弥陀三尊像
102	水神社の板碑	滝川　今城	中世	石造物		享保 12 年
103	聖寿院の板碑	滝川　今城	中世	石造物		種子ウーン
104	金光寺の六地蔵塔	陣	中世	石造物		残欠２基
105	観音院の板碑群	木倉　観音院	中世	石造物		天正８年他、 数十基有り
106	宗心原の板碑	木倉　宗心原	中世	石造物		絵図面石
107	永寿寺の板碑・石塔	木倉　西	中世	石造物	町	無銘・永禄 13 年、石塔町指定
108	永寿寺門前の板碑	木倉　西	中世	石造物		阿弥陀三尊
109	浄光寺の板碑	木倉　東	中世	石造物		享禄３年・永禄７年（追刻 11 年）
110	浄光寺跡	木倉　東	中世	寺社		
111	北木倉の板碑	木倉　北	中世	石造物		阿弥陀三尊・天文 18 年建
113	東禅寺木造釈迦三尊像	辺田見　東禅寺	中世	石造物	県	甲斐宗運夫婦の墓町指定、六地蔵町指定
114	上辺田見の板碑	辺田見　上辺田見	中世	石造物		永禄２年・天文 17 年
115	中道橋	辺田見　上辺田見	近世	建造物		安政２年建
116	大井手川橋	辺田見　中辺田見	近世	建造物		橋上はコンクリート
117	明王堂の板碑	滝尾　横野	中世	石造物		天文８年建
118	下梅木の板碑	滝尾　下梅木	中世	石造物		永禄９年
129	条里跡		古代・中世	生産		
130	条里跡		古代・中世	生産		
137	秋只山下遺跡	豊秋　秋只	弥生・中世	集落跡		
138	山下遺跡	高木　下前田・山下	縄文・中世	包蔵地		
140	辺田見中道遺跡	辺田見	縄文	包蔵地		縄文土器・石器
141	滝川石田遺跡	滝川	縄文・古墳	包蔵地		

熊本県（43）熊本市（201）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
359	佐土原	健軍町佐土原	縄文～平安	包蔵地		
360	沼山津	秋津町	弥生～平安	包蔵地		
361	下津代里	秋津町	縄文～平安	包蔵地		
362	沼山津貝塚	秋津町３丁目沼山津	縄文	貝塚		縄文中期・後期
363	四時軒及び四時軒跡	秋津町沼山津	江戸	建造物	市	市指定建造物及び史跡
514	佐土原芥川板碑	健軍町佐土原	中世	石造物		線刻観音板碑
515	横井小楠の墓	秋津町沼山津	明治	墓		明治２年
516	沼山津板碑群	秋津町	中世	石造物		天文９年、永禄 11 年
517	沼山津会所跡	秋津町	江戸	包蔵地		

熊本県（43）嘉島町（442）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
005	矢形川流域条里跡	下六嘉　上島・鯰ほか	古代・中世	生産		
010	井寺古墳	井寺　宮屋敷	古墳	古墳	国	横穴式石室墳、幾何文様あり、直刀
011	上宮塚古墳群	井寺　上宮塚	古墳	古墳		
	上宮塚１号古墳	井寺　上宮塚	古墳	古墳		
	上宮塚２号古墳	井寺　上宮塚	古墳	古墳		
012	上宮塚	井寺　上宮塚	弥生	埋葬		弥生甕棺
013	カキワラ	下六嘉　カキワラ	弥生	埋葬		弥生甕棺
014	カキワラ貝塚	下六嘉　カキワラ	縄文	貝塚		縄文前後期の土器
015	宮の本甕棺群	下六嘉　宮の本ほか	弥生	埋葬		弥生甕棺・石包丁・箱式石棺
016	井寺	井寺　宮屋敷	縄文～中世	包蔵地		
017	道上城跡	下六嘉　泉上	中世	城		
018	西光寺	下六嘉　西光寺	縄文～中世	包蔵地		
019	西光寺甕棺群	下六嘉　西光寺	弥生	埋葬		
020	内屋敷	下六嘉　西光寺	弥生	埋葬		
021	護宿神の墓（菊地武光）	下六嘉　西光寺	中世	墓		
022	下六嘉遺跡群	下六嘉	弥生～古代	包蔵地		
023	六嘉神社の五重塔	下六嘉　宮の本	中世	石造物		
024	下六嘉の五輪塔	下六嘉	中世	石造物		
025	遠見塚の塔	井寺　遠見塚	中世	石造物		
026	剣原古墳	北甘木　剣原	古墳	古墳		
027	剣原甕棺群	北甘木　剣原	弥生	埋葬		
028	手水鉢	特　浮島	中世	石造物		
032	石塚	北甘木　石塚ほか	縄文・弥生	埋葬		縄文後・晩期土器・弥生甕棺
033	御前塚古墳	北甘木　塔の木	古墳	古墳		
034	二子塚	北甘木　二子塚ほか	弥生・古代	包蔵地		環濠集落
035	二子塚古墳	北甘木　二子塚ほか	古墳	古墳		
036	下古閑	下古閑	縄文	包蔵地		縄文土器・土師器
037	塔ノ木	北甘木　塔ノ木　豆板	縄文～古代	包蔵地		

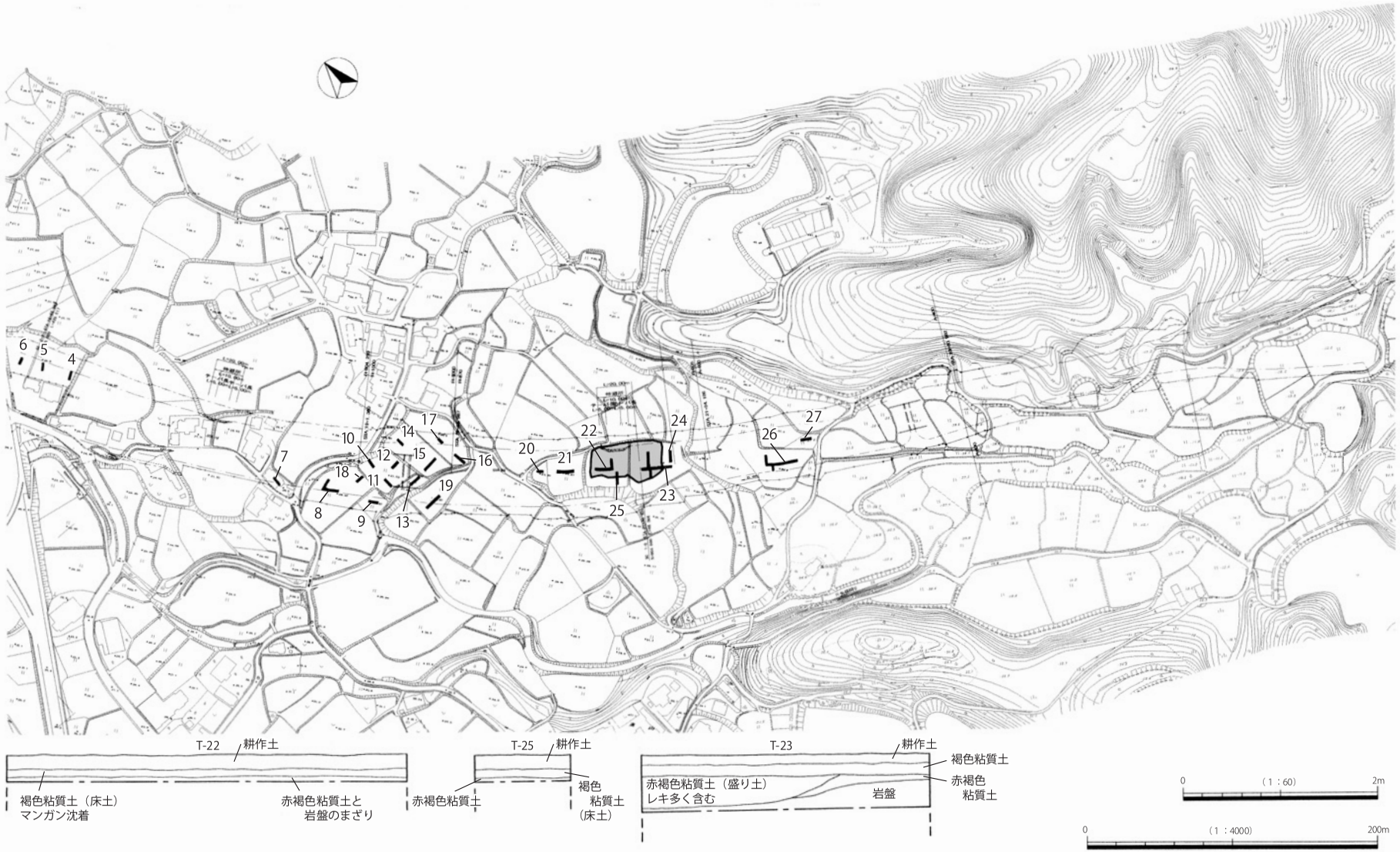
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
038	小迫	井寺　小迫	縄文	包蔵地		縄文前期土器
039	竜福寺跡	上六嘉　竜福寺	中世	寺社		
040	西林寺跡	上六嘉　中郡	中世	寺社		
041	大羅	上六嘉	弥生	包蔵地		
042	内野	井寺　内野 550 番地他 21 筆	縄文・弥生	散布地		
043	町頭	井寺　弥四郎 724 番地他 31 筆	縄文・弥生	散布地		
044	遠見塚	井寺　上官塚 909 番地他 6 筆	縄文・弥生	散布地		縄文土器、弥生土器、甕棺
045	紫原	北甘木　紫原 1217-1 番地外 9 筆	縄文・弥生	散布地		縄文土器、弥生土器
046	塔平	井寺　上大迫・小豆板	縄文・弥生・奈良～平安	包蔵地		

熊本県（43）益城町（443）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
009	古川	安永　古川	弥生・古墳	集落		
010	葉山	広崎　葉山・西原	弥生～古代	包蔵地		
011	葉山古墳	広崎　葉山	古墳	古墳		稲荷さん
012	古閑	古閑　宅地	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生、土師器外の遺物包含
013	福富	古閑　石井川ほか	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生、土師器外の遺物包含、瓦片
014	駿河原	馬水　駿河原	縄文・弥生	包蔵地		
015	狐塚古墳	馬水　駿河原	古墳	古墳		埴輪片、須恵器
016	馬水製鉄所跡	馬水　駿河原	古代・中世	生産		ふいご羽口・鉱滓・青磁・土師器
017	広崎六本木	広崎　六本木	古墳	包蔵地		
018	惣領	惣領　高木	縄文～古代	包蔵地		
019	高木箱式石棺群	惣領　高木	古墳	埋葬		石棺多数
020	宮園Ａ	木山　遠見塚ほか	弥生	包蔵地		弥生中期土器
021	木山城跡	寺迫　城ノ本	弥生	城		下部に弥生後期、住居址群
022	平田	平田　境	弥生	包蔵地		弥生甕棺
023	城ノ本古墳	寺迫　城ノ本	古墳	古墳	町	円墳、箱式石棺（移転）、出土品町指定
024	上ノ原箱式石棺	寺迫　上ノ原	古墳	埋葬		
025	上ノ原	寺迫　上ノ原	弥生	埋葬		弥生甕棺群
028	辻	宮原　辻	縄文～中世	包蔵地		
029	宗曽利	安永　宗曽利	縄文～中世	包蔵地		
038	樋島	島田　南島	縄文	包蔵地		縄文土器
039	立石	島田　立石	弥生	包蔵地		弥生土器
040	東無田	島田　東無田居敷	弥生	包蔵地		弥生中期土器・甕棺
041	秋永	小池　秋永ほか	弥生	集落		弥生中・後期、土師器
042	鬼塚古墳	小池　鬼塚	古墳	古墳		
043	八反田	砥川　八反田	弥生	埋葬		弥生中期甕棺
044	秋永石棺群	小池　秋永・麻生原	古墳	埋葬		
045	塔平	小池・塔平・鳥越・小迫原・牛井川・鬼塚・西原	縄文・弥生・奈良～平安	包蔵地		
046	赤井	赤井　登町	古代	包蔵地		土師器
047	赤井城跡	赤井　本丸	中世	城		「本丸」の地名あり
048	福原横穴群	福原　西鳥山	古墳	古墳		平瓶
049	福田	福原　福田寺	古墳・古代	包蔵地		大小土師器壺２個出土
050	砥川城跡	砥川　城尾	中世	城		（城の尾城跡）
051	安養寺跡	福原　杉ノ久保	中世	寺社		
052	鬼の窟古墳	福原　南市川	古墳	古墳		行者窟の様相強
053	福田寺跡	福原　福田寺	古代・中世	寺社		須恵蔵骨器・青磁
054	うどばば横穴	福原　杉久保	古墳	古墳		
055	五千塚箱式石棺	福原　五千塚	古墳	埋葬		
056	源志山	福原　源志山	縄文～古代	包蔵地		弥生土器、曽畑式土器
057	上ノ原箱式石棺群	福原　上ノ原	古墳	埋葬		
060	飯田山常楽寺跡	砥川　飯田・常楽寺	古代・中世	寺社		古塔碑散乱
061	飯田古墳	砥川　飯田・常楽寺	古墳	古墳		
062	田口平城跡（飯田城跡）	砥川　樋口・大人足	中世	城		
063	安永	安永	弥生～古代	包蔵地		
064	火迫石棺群	安永	古墳	埋葬		
065	大辻	馬水　大辻	縄文～平安	包蔵地		
067	条里跡		古代・中世	生産		
068	条里跡		古代・中世	生産		
069	条里跡		古代・中世	生産		
070	条里跡		古代・中世	生産		
071	梨木	広崎　梨木	縄文～弥生	包蔵地		
072	古閑北	古閑　崎久保・横道	縄文～弥生	包蔵地		
073	野稲迫	福富　野稲迫	縄文～中世	包蔵地		
074	杉ノ久保	福原　杉ノ久保	弥生	包蔵地		
075	松山峠遺跡	広崎字松山峠	縄文	散布地		縄文後期～晩期の土器出土
077	中原	小池　中原	縄文～古墳	包蔵地		
078	小柳	寺迫　小柳	古墳	集落		

熊本県（43）甲佐町（444）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
001	中尾原	白旗　中尾	弥生	包蔵地		弥生中後期土器・石窓丁・石斧
002	北早川横穴群	白旗　北早川	古墳	古墳		
013	田口東原	田口　東原	縄文	包蔵地		縄文（晩）、須恵器・黒曜石
030	中山錦川	中山　錦川	古代・弥生	集落跡		土師器、須恵器、弥生土器



第２図　試掘・確認調査トレンチ位置図（1/4000）及び土層断面図（1/60）

第３章　調査の方法と成果

第１節　確認調査の概要（第２図）

試掘・確認調査は平成 19 年 12 月 12 日～ 17 日に 4 日間にわたって行われた。九州横断自動車道延岡線事業地内の 27 箇所にトレンチを設け、遺構と遺物の有無とその包含状況を確認した。以下にその内容を抜粋して記載する。

27 箇所のトレンチ調査の結果、５箇所から遺構と遺物が確認された。その内、21、26 トレンチでは、耕作土中から遺物のみの確認であったため発掘調査対象地外とされた。一方、22、23、25 トレンチでは、中世の土師器片を伴い複数のピットが確認されたため、この敷地内での発掘調査が必要と判断された。

第２表　試掘・確認調査トレンチ概要

No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ	No.	遺構・遺物・深さ
1	無・無・140cm	7	無・無・70cm	13	無・無・70cm	19	無・無・120cm	25	有・有・20cm
2	無・無・120cm	8	無・無・95cm	14	無・無・40cm	20	無・無・80cm	26	無・有・20cm
3	無・無・40cm	9	無・無・70cm	15	無・無・150cm	21	無・有・50cm	27	無・無・26cm
4	無・無・170cm	10	無・無・60cm	16	無・無・90cm	22	有・有・22cm		
5	無・無・190cm	11	無・無・110cm	17	無・無・85cm	23	有・有・20cm		
6	無・無・220cm	12	無・無・50cm	18	無・無・85cm	24	無・無・20cm		

第２節　調査の方法

発掘調査区は、試掘･確認調査によって遺構･遺物が確認された 22、23、25 トレンチの敷地内に設定した。調査面積は約 1,700㎡である。

発掘調査は、まず調査区南東側から北西側に向かって重機により耕作土と水田の床土を除去した。過去の造成や耕作により遺物包含層は残っておらず、表土除去作業終了後、直ちに作業員により人力で遺構検出作業を行った。

４級基準点及びメッシュ杭設置作業は、株式会社九州文化財研究所に委託して実施した。メッシュ杭は平面直角座標にのせ、５m単位とした。この５m四方の区画をひとつのグリッドとし発掘調査の基準とした。グリッドは東西方向を西から東へＡ～Ｍ、南北方向を北から南へ１～１１と設定した。なお、平面直角座標は、国土地理院のホームページで日本測地系の数値を世界測地系に変換し使用している。

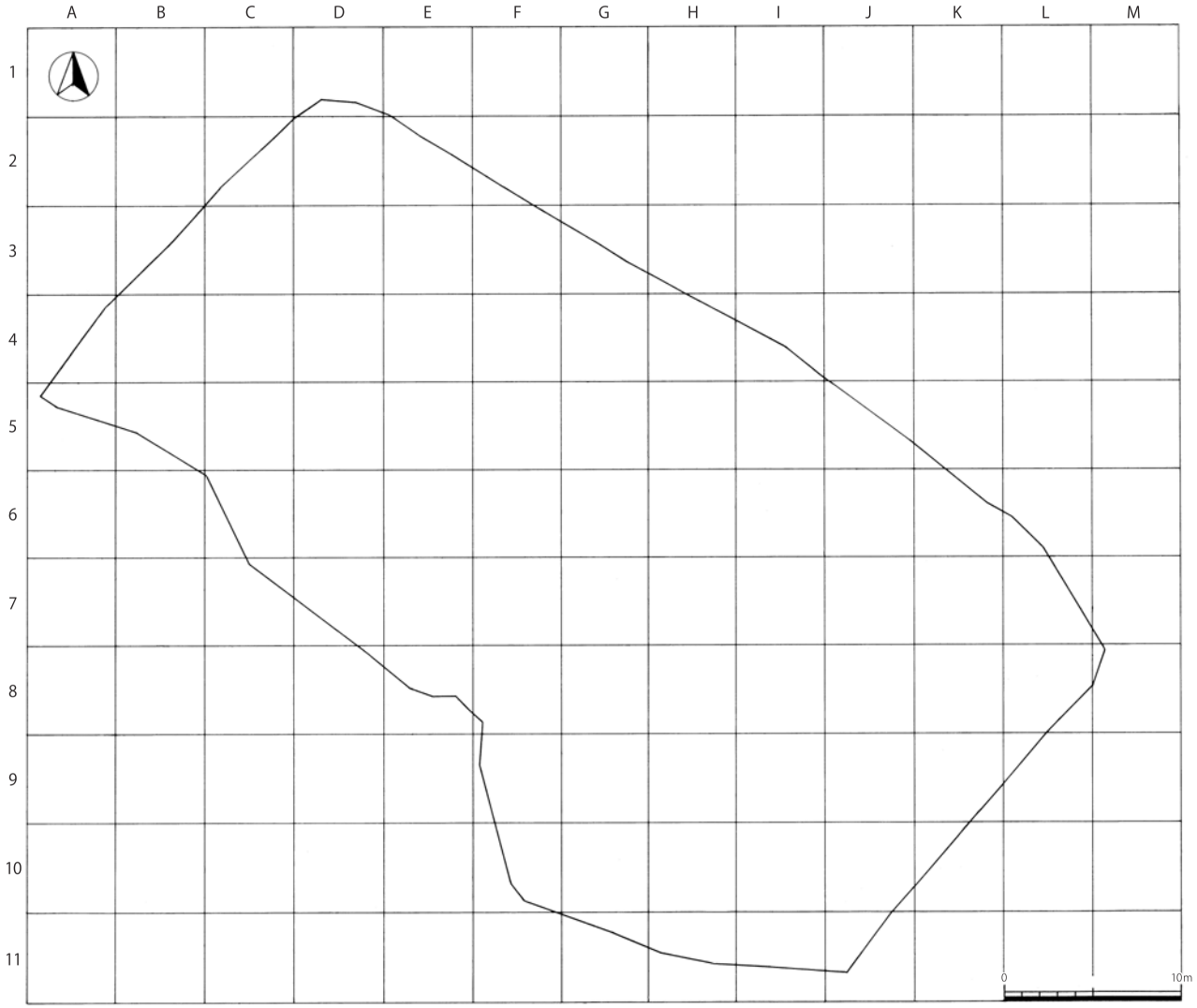
遺構検出作業終了後、簡易な遺構配置図を作成した。遺構掘削は人力により行った。多くのピットを検出したため、検出時に掘立柱建物や柵跡と判断したものは、半裁し、土層断面図を作成したうえで完掘した。それ以外のピットについては、半裁し、完掘した。遺構内出土遺物は、遺構名、層位名を付して取り上げた。遺構外出土の遺物は､グリッド単位で取り上げた。遺構は完掘したのち完掘平面図を作成し､写真撮影を行った。写真撮影は中判の白黒フィルムとカラーリバーサル、35mm の白黒フィルムとカラーリバーサルを用いて行った。

遺跡周辺の航空写真撮影は、九州航空株式会社熊本営業所に委託し実施した。

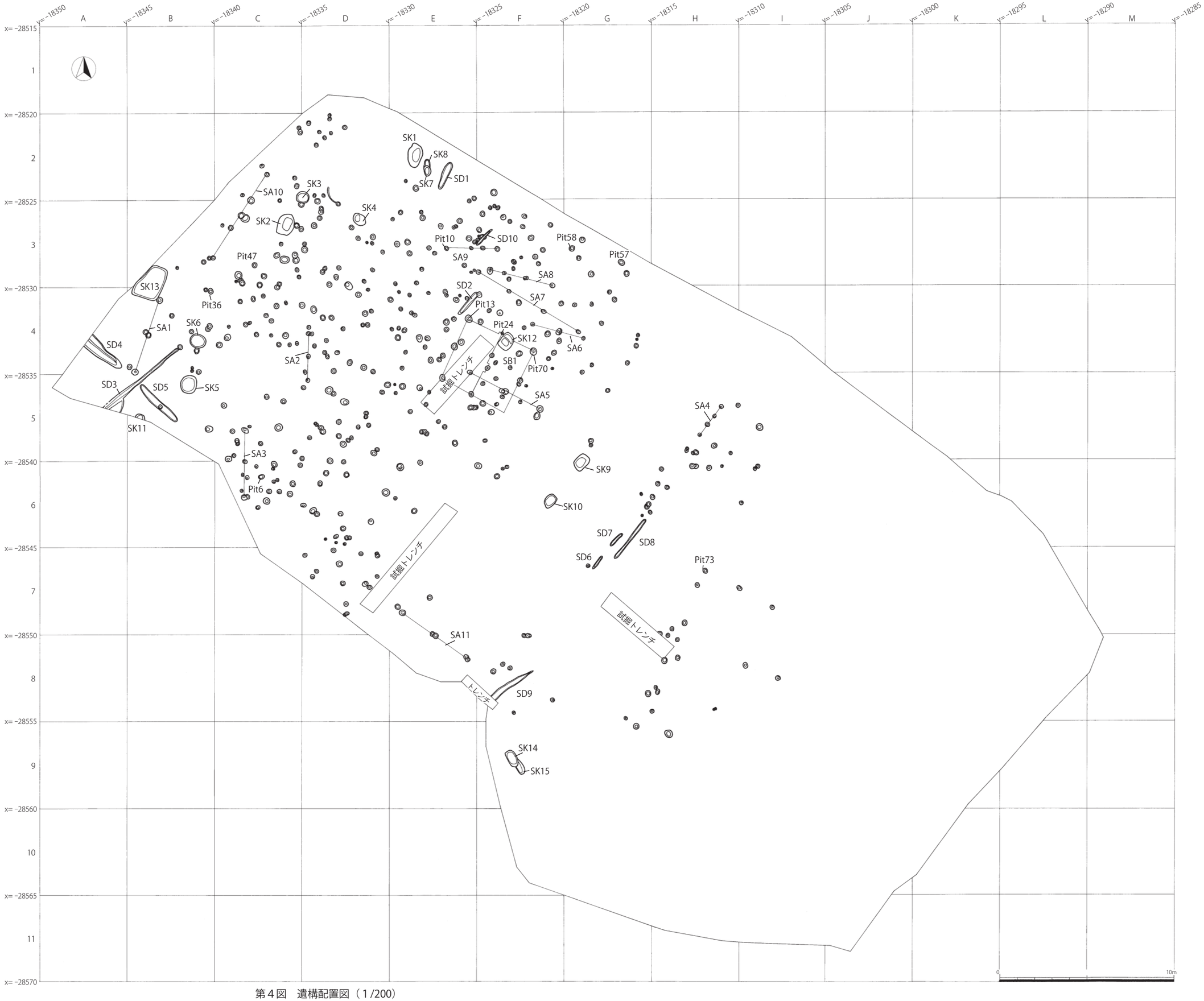
第３節　層序（第２図）

本遺跡の基本層序は以下のとおりである。

１層：耕作土。現在の水田面である。



第３図　調査区グリッド設定図（1/400）



第４図　遺構配置図（1/200）

２層：褐色粘質土。水田の床土である。

３層：赤褐色粘質土。遺構検出面である。黒色土を覆土とする多量のピットを確認した。

第４節　調査の成果

（１）遺構（第４図）

①掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡（ＳＢ１）（第５図）

ＳＢ１はＥ・Ｆ－４・５に位置し２間×２間の総柱建物で、桁行方向はＮ 63°Ｗである。南東隅の柱穴を確認することができなかったため、掘立柱建物跡とすることに疑問もあったが、他の柱穴の並び等から今回は掘立柱建物跡と判断した。Pit №を付した柱穴からは、それぞれ遺物が出土している。

第３表　掘立柱建物跡計測表

遺構番号	間数	桁長		梁長		建物の向き	方位	型式	桁行平均		梁行平均		柱穴直径	柱穴深さ
		m	尺	m	尺				m	尺	m	尺	cm	cm
ＳＢ１	２×２	4.22	13.9	3.76	12.4	東西	N 63° W	総柱	2.1	6.9	1.9	6.3	22～44	5～38

②柵跡

１号柵跡（ＳＡ１）（第６図）

ＳＡ１はＢ－４に位置し、３つの柱穴からなっている。長さは 4.75 mで柱間隔は、2.27 m＋ 2.1 mの２間である。柱穴は直径 31cm ～ 38cm、深さ 27cm ～ 43cm で下端レベルは一定ではない。

２号柵跡（ＳＡ２）（第６図）

ＳＡ２はＤ－４・５に位置し、３つの柱穴からなっている。長さは 2.91 mで柱間隔は、1.39 m＋ 1.31 mの２間である。柱穴は直径 21cm ～ 24cm、深さ 10cm ～ 29cm で両端の柱穴の下端はほぼ一定である。

３号柵跡（ＳＡ３）（第６図）

ＳＡ３はＣ－５・６に位置し、３つの柱穴からなっている。長さは 4.19 mで柱間隔は、2.05 m＋ 1.81 mの２間である。柱穴は直径 23cm ～ 40cm、深さ 16cm ～ 37cm で下端レベルは一定ではない。

４号柵跡（ＳＡ４）（第６図）

ＳＡ４はＨ－５に位置し、４つの柱穴からなっている。長さは 2.25 mで柱間隔は、0.72 m＋ 0.64 m＋ 0.68 mの３間である。柱穴は直径 19cm ～ 27cm、深さ６cm ～ 14cm で下端レベルは一定ではない。

５号柵跡（ＳＡ５）（第６図）

ＳＡ５はＥ・Ｆ－５に位置し、３つの柱穴からなっている。長さは 4.86 mで柱間隔は、2.23 m＋ 2.31 mの２間である。柱穴は直径 26cm ～ 40cm、深さ４cm ～ 14cm で下端レベルは一定ではない。中央の柱穴に切りあいが認められるが、建替えによるものか、別の柱穴によるものか判断できない。

６号柵跡（ＳＡ６）（第６図）

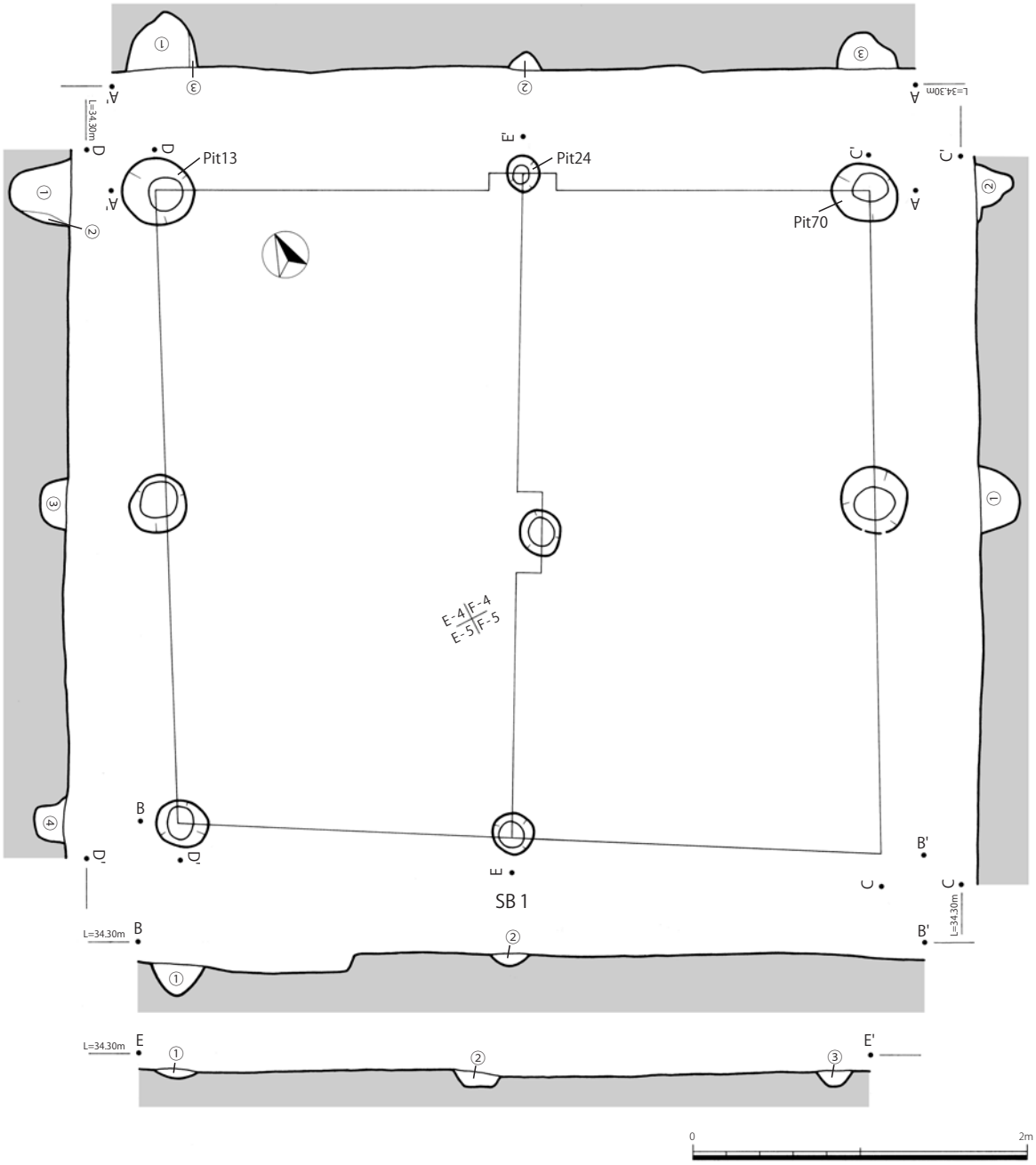
ＳＡ６はＦ－４・Ｇ－４に位置し、３つの柱穴からなっている。長さは 3.25 mで柱間隔は、1.57 m＋ 1.45 mの２間である。柱穴は直径 20cm ～ 37cm、深さ 12cm ～ 17cm で下端レベルは一定ではない。

７号柵跡（ＳＡ７）（第７図）

ＳＡ７はＦ－3・4・Ｇ－４に位置し、４つの柱穴からなっている。長さは 6.92 mで柱間隔は、2.06 m＋ 2.28 m＋ 2.33 mの３間である。柱穴は直径 20cm ～ 31cm、深さ４cm ～ 13cm で下端レベルはほぼ一定する。

８号柵跡（ＳＡ８）（第７図）

ＳＡ８はＦ－３に位置し、４つの柱穴からなっている。長さは 3.99 mで柱間隔は、0.82 m＋ 1.22 m＋ 1.6



A - A'
① Hue 7.5YR 4/4 褐色 締りやや強い 粘性強い レキ(0.1～1cm)を多く含む 炭化物少量含む
② Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～0.5cm)を多く含む 炭化物少量含む
③ Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～2cm)を多く含む 炭化物少量含む

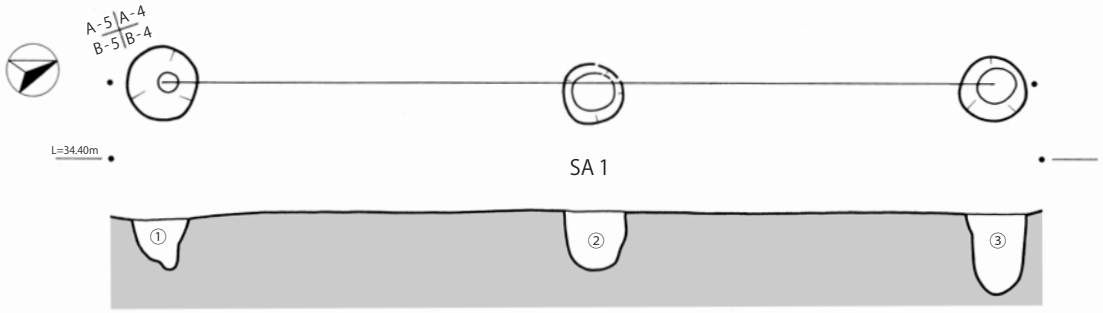
B - B'
① Hue 10YR 4/3 にぶい黄褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～0.5cm)をやや多く含む
② Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～0.5cm)を多く含む

C - C'
① Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～3cm)を多く含む 炭化物少量含む
② Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～2cm)を多く含む 炭化物少量含む

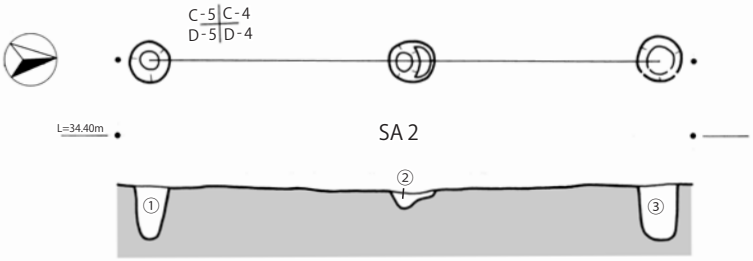
D - D'
① Hue 7.5YR 4/4 褐色 締りやや強い 粘性強い レキ(0.1～1cm)を多く含む 炭化物少量含む
② Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～2cm)を多く含む 炭化物少量含む
③ Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～0.5cm)を多く含む 炭化物やや多く含む
④ Hue 10YR 4/3 にぶい黄褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～0.5cm)をやや多く含む

E - E'
① Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～0.5cm)を多く含む
② Hue 10YR 3/4 暗褐色 酸化鉄とマンガン粒を多く含む 炭化物も少し含む 0.2～0.5cm大のレキを含む
③ Hue 10YR 3/3 暗褐色 締り強い 粘性強い レキ(0.1～0.5cm)を多く含む 炭化物少量含む

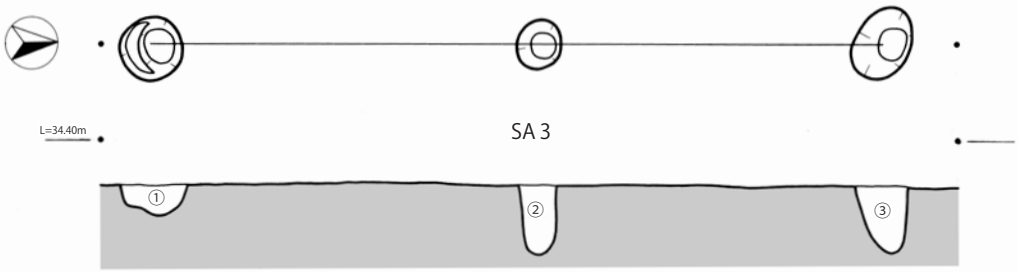
第５図　掘立柱建物跡平面・断面図



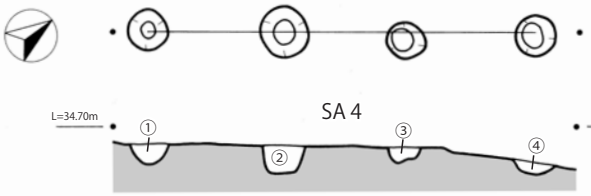
①・②・③　Hue　7.5YR　3/2　黒褐色　締り強い　粘性強い　レキ（0.1～3cm）を多く含む　炭化物少量含む（②・③は炭化物やや多く含む）



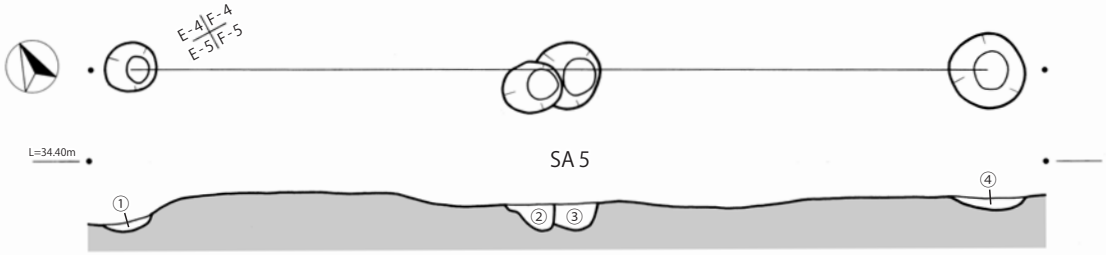
①・③　Hue　7.5YR　3/2　黒褐色　締り強い　　粘性強い　レキ（0.2～1cm）を多く含む　炭化物少量含む
②　Hue　10YR　3/4　暗褐色　締りやや強い　粘性強い　レキ（0.1～2cm）を多く含む　炭化物少量含む



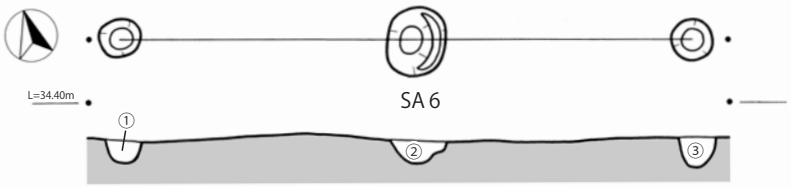
①　Hue　10YR　3/3　暗褐色　締り強い　粘性強い　レキ（0.1～2cm）を多く含む　　炭化物少量含む
②　Hue　7.5YR　3/2　黒褐色　締り強い　粘性強い　レキ（0.2～5cm大きめのレキは少ない）を多く含む　　炭化物少量含む
③　Hue　7.5YR　3/2　黒褐色　締り強い　粘性強い　レキ（0.1～5cm大きめのレキが多い）を多く含む　　炭化物少量含む



①Hue　7.5YR　3/4　暗褐色　締り強い　粘性強い
レキ（0.1～0.5cm）を多く含む　炭化物少量　やや褐色土強い
②Hue　7.5YR　3/4　暗褐色　締り強い　粘性強い
レキ（0.1～1.5cm）を多く含む　炭化物少量
③Hue　7.5YR　3/4　暗褐色　締り強い　粘性強い
レキ（0.1～0.5cm）を多く含む　炭化物少量
④Hue　7.5YR　3/2　黒褐色　締り強い　粘性強い
レキ（0.1～0.5cm）を多く含む　炭化物少量



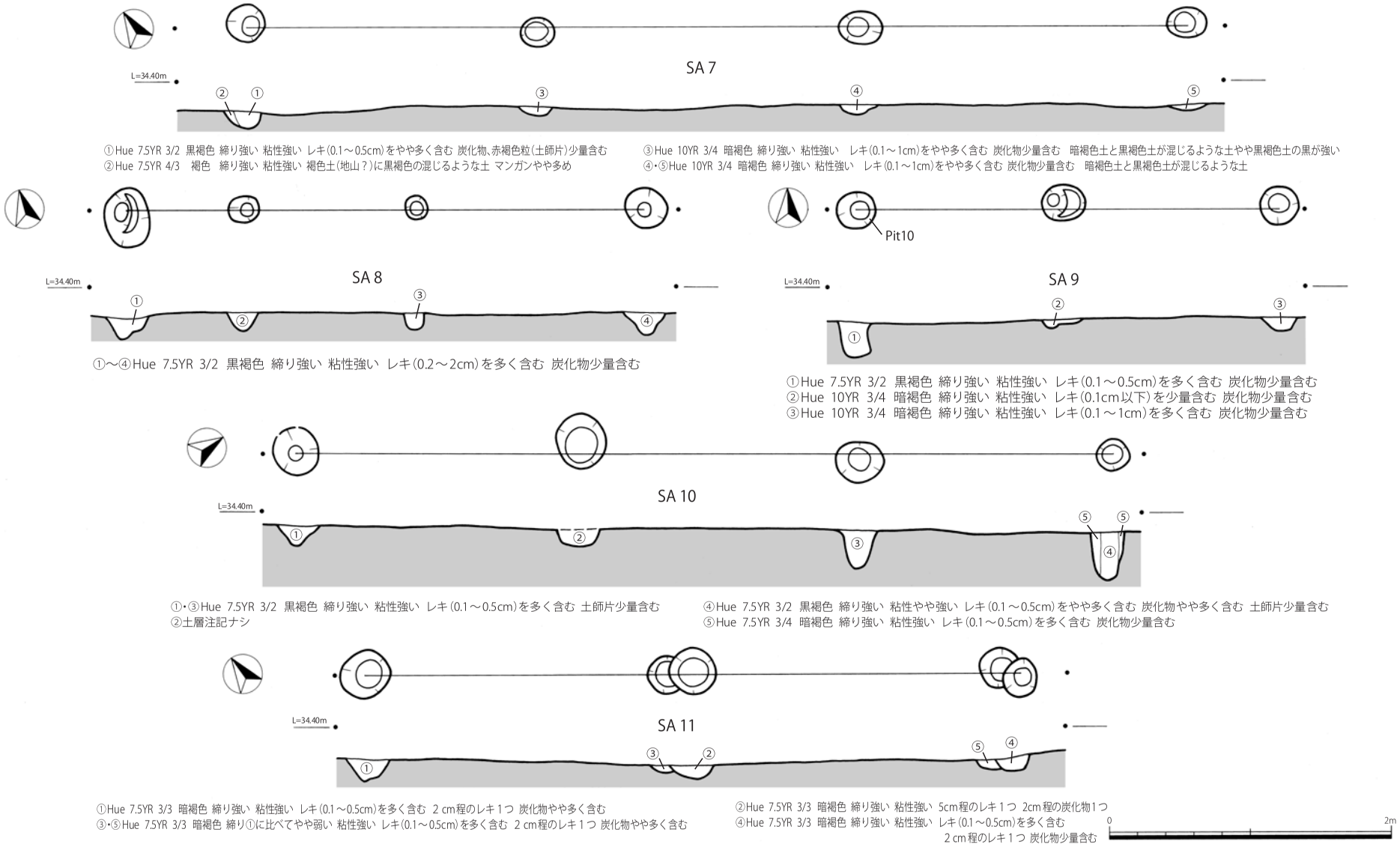
①Hue　7.5YR　4/3　褐色　締り強い　粘性強い　レキ（0.1～1cm）をやや多く含む
②Hue　7.5YR　3/2　黒褐色　締り強い　粘性強い　レキ（0.1～1cm）を多く含む　炭化物やや多く含む
③Hue　7.5YR　3/3　暗褐色　締り強い　粘性強いレキ（0.1～0.5cm）を多く含む　炭化物（0.1～2cm）を少量含む
④Hue　7.5YR　3/4　暗褐色　締り強い　粘性やや強い　レキ（0.1～0.5cm）を多く含む　炭化物少量含む



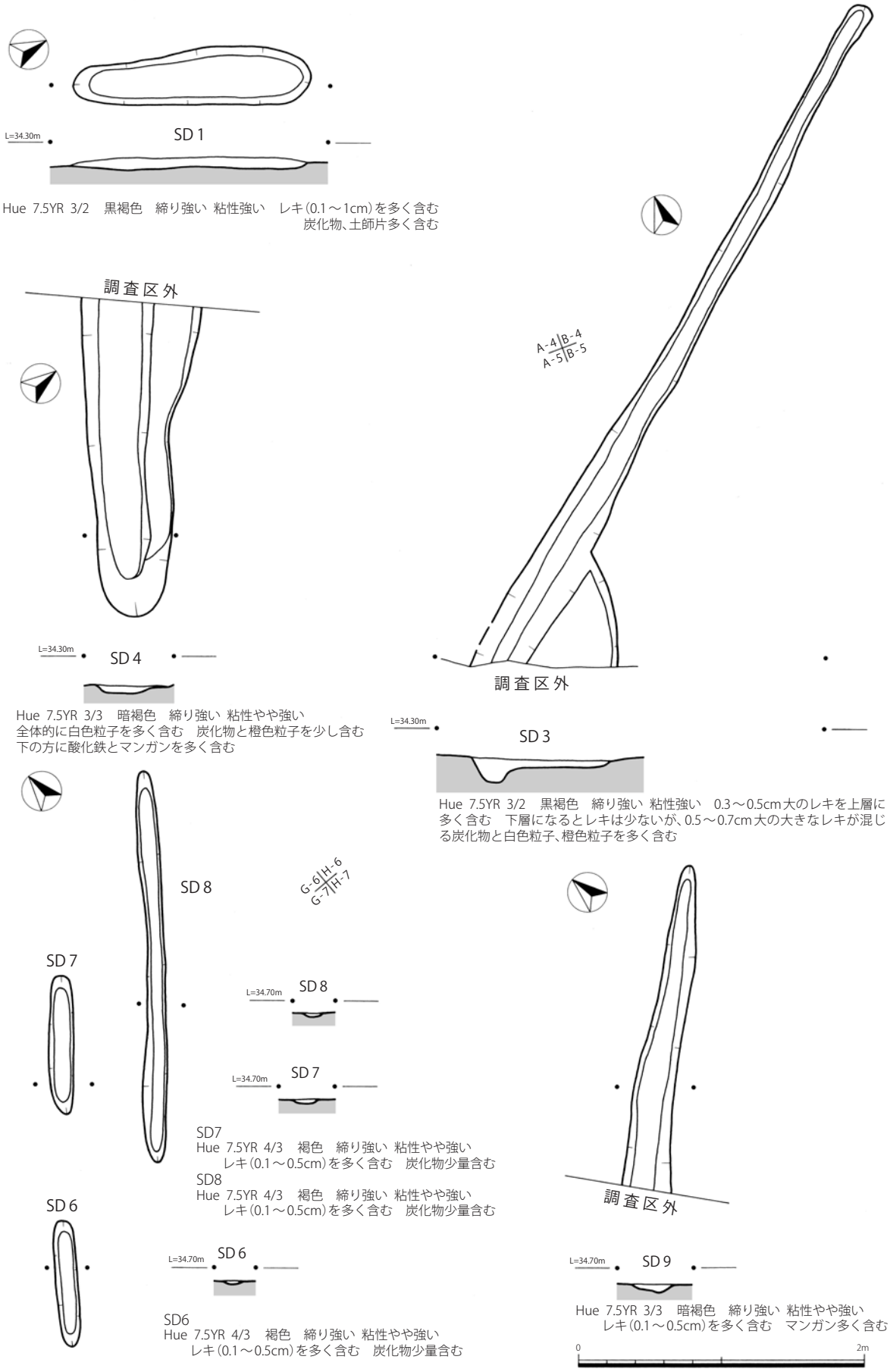
①・②・③　Hue　7.5YR　4/3　褐色　締り強い　粘性強い　レキ（0.1cm以下）を含む　炭化物少量含む　砂質が強い　褐色土に一部黒褐色土混じる

0　2m

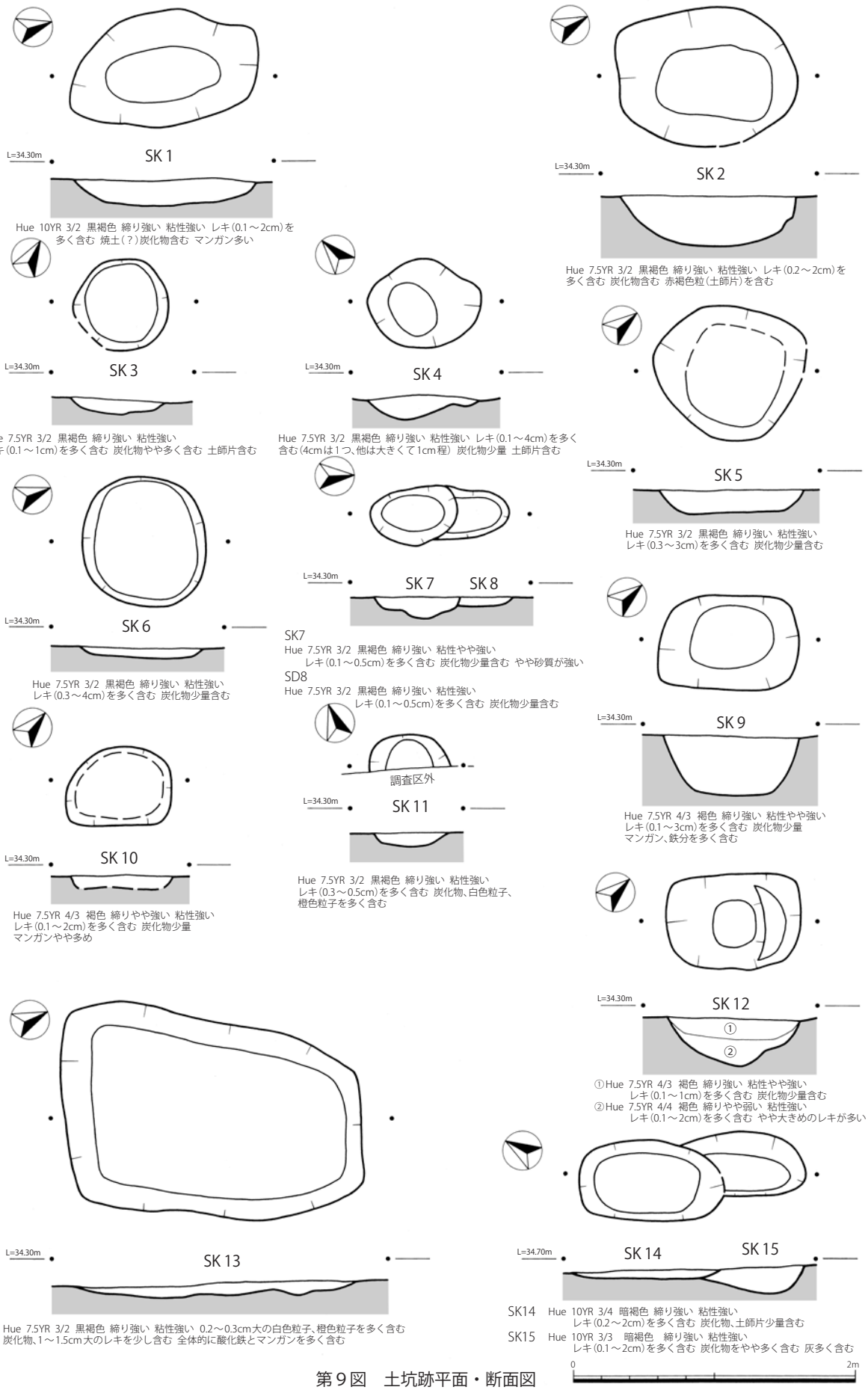
第６図　柵跡平面・断面図１



第７図　柵跡平面・断面図２



第８図　溝状遺構平面・断面図



第９図　土坑跡平面・断面図

mの３間である。柱穴は直径 16cm ～ 41cm、深さ 12cm ～ 16cm で下端レベルは一定ではない。柱間隔が一定でないため柵跡とするには疑問も残る。

９号柵跡（ＳＡ９）（第７図）

ＳＡ９はＥ・Ｆ－３に位置し、３つの柱穴からなっている。長さは 3.26 mで柱間隔は、1.45 m＋ 1.53 mの２間である。柱穴は直径 25cm ～ 31cm、深さ６cm ～ 26cm で下端レベルは一定ではない。

10 号柵跡（ＳＡ 10）（第７図）

ＳＡ10はＣ－２・３・Ｂ－３に位置し、４つの柱穴からなっている。長さは約６.05ｍで柱間隔は、2.01ｍ＋1.97ｍ＋1.78ｍの３間である。柱穴は直径22cm～39cm、深さ13cm～34cmで下端レベルは一定ではない。

11 号柵跡（ＳＡ 11）（第７図）

ＳＡ 11 はＥ－７・８に位置し、３つの柱穴からなっている。長さは約 4.92 mで柱間隔は、2.22 m＋ 2.32 mの２間である。柱穴は直径 24cm ～ 36cm、深さ５cm ～ 16cm で下端レベルはほぼ一定する。２つの柱穴に切りあいが認められる。新旧で柱穴の直径、深さ、間隔がほぼ同一であることから建替えの可能性を指摘できる。

③溝状遺構

１号溝状遺構（ＳＤ１）（第８図）

ＳＤ１はＥ－２に位置し、幅約0.4ｍ、長さ1.66ｍ、深さ0.09ｍの溝である。大形の土坑の可能性もあるが、ここでは溝跡として報告する。

３号溝状遺構（ＳＤ３）（第８図）

ＳＤ３はＢ－４・５・Ａ－５に位置し、幅約 0.2 m、長さ 5.24 m、深さ 0.16 mの溝である。北東方向から南西方向へ、調査区外へと伸びる。調査区壁際で広がる。別遺構による切り合いの可能性がある。

４号溝状遺構（ＳＤ４）（第８図）

ＳＤ４はＡ－４に位置し、幅約 0.6 m、長さ 2.21 m、深さ 0.06 mの溝である。南東方向から北西方向へ、調査区外へと伸びる。

６号溝状遺構（ＳＤ６）（第８図）

ＳＤ６はＧ－７に位置し、幅約 0.15 m、長さ 0.88 m、深さ 0.02 mの溝である。南西方向から北東方向へと伸びる。ＳＤ７・８と並行する。調査区全体が削平されているため、本来はＳＤ７と同一の可能性がある。

７号溝状遺構（ＳＤ７）（第８図）

ＳＤ７はＧ－６に位置し、幅約 0.17 m、長さ 0.97 m、深さ 0.03 mの溝である。南西方向から北東方向へと伸びる。ＳＤ６・８と並行する。調査区全体が削平されているため、本来はＳＤ６と同一の可能性がある。

８号溝状遺構（ＳＤ８）（第８図）

ＳＤ８はＧ－６・７に位置し、幅約 0.16 m、長さ 2.74 m、深さ 0.02 mの溝である。南西方向から北東方向へと伸びる。ＳＤ６・７と並行する。

９号溝状遺構（ＳＤ９）（第８図）

ＳＤ９はＦ－８に位置し、幅約 0.29 m、長さ 2.28 m、深さ 0.06 mの溝である。北東方向から南西方向へ、調査区外へと伸びる。

④土坑

１号土坑（ＳＫ１）（第９図）

ＳＫ１はＥ－２に位置し、長軸 1.33 m、短軸 0.84 m、深さ 0.18 mを測る。平面形態は楕円形を呈する。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

２号土坑（ＳＫ２）（第９図）

ＳＫ２はＣ－３に位置し、長軸 1.29 m、短軸 0.98 m、深さ 0.35 mを測る。平面形態は楕円形を呈する。

覆土は１層、断面形態はやや深い皿状を呈する。

３号土坑（ＳＫ３）（第９図）

ＳＫ３はＣ・Ｄ－２・３に位置し、長軸0.67 m、短軸0.64 m、深さ0.12 mを測る。平面形態は円形を呈する。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

４号土坑（ＳＫ４）（第９図）

ＳＫ４はＤ－３に位置し、長軸0.81 m、短軸0.62 m、深さ0.17 mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

５号土坑（ＳＫ５）（第９図）

ＳＫ５はＢ－５に位置し、長軸1.04 m、短軸0.94 m、深さ0.16 mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。覆土は１層、断面形態は浅い台形状を呈する。

６号土坑（ＳＫ６）（第９図）

ＳＫ６はＢ－４に位置し、長軸0.92 m、短軸0.86 m、深さ0.07 mを測る。平面形態は円形を呈する。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

７号土坑（ＳＫ７）（第９図）

ＳＫ７はＥ－２に位置し、長軸0.61 m、短軸0.42 m、深さ0.16 mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。ＳＫ８を切っている。覆土は１層、断面形態はややいびつな皿状を呈する。

８号土坑（ＳＫ８）（第９図）

ＳＫ５はＥ－２に位置し、ＳＫ７によって切られているため推定だが長軸0.52 m～、短軸0.37 m、深さ0.08 mを測る。平面形態は楕円形を呈する。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

９号土坑（ＳＫ９）（第９図）

ＳＫ９はＧ－５・６に位置し、長軸1.0 m、短軸0.66 m、深さ0.43 mを測る。平面形態は隅丸の長方形を呈する。覆土は１層、断面形態は深い台形状を呈する。

１０号土坑（ＳＫ１０）（第９図）

ＳＫ１０はＦ－６に位置し、長軸0.75 m、短軸0.56 m、深さ0.1 mを測る。平面形態は不整な円形を呈する。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

１１号土坑（ＳＫ１１）（第９図）

ＳＫ１１はＢ－５に位置し、調査区外に広がるため検出できた範囲で長軸0.44 m、短軸0.24 m、深さ0.1 mを測る。平面形態は不整な円形を呈するものと思われる。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

１２号土坑（ＳＫ１２）（第９図）

ＳＫ１２はＦ－４に位置し、長軸0.95 m、短軸0.68 m、深さ0.33 mを測る。平面形態は隅丸の長方形を呈する。覆土は２層に分層できる。断面形態は北側に段を持つ擂鉢状を呈する。

１３号土坑（ＳＫ１３）（第９図）

ＳＫ１３はＢ－３・４に位置し、長軸2.16 m、短軸1.55 m、深さ0.1 mを測る。平面形態は北西隅が張り出しぎみの長方形を呈する。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

１４号土坑（ＳＫ１４）（第９図）

ＳＫ１４はＦ－９に位置し、長軸1.02 m、短軸0.58 m、深さ0.06 mを測る。平面形態は隅丸の長方形を呈する。ＳＫ１５を切っている。覆土は１層、断面形態は皿状を呈する。

１５号土坑（ＳＫ１５）（第９図）

ＳＫ１５はＦ－９に位置し、ＳＫ１４によって切られているため推定だが長軸0.9 m、短軸0.44 m、深さ0.2 mを測る。平面形態は楕円形を呈する。覆土は１層、断面形態は南東側がやや深い皿状を呈する。

（２）遺物

①遺構内（第 10 図）

遺構覆土内からは土師器破片が主に出土した。いずれも小破片であり、器形全体を復元できる資料は極めて乏しかった。今回図示できた資料の内訳は、中世の片口鉢１点、瓦器椀１点、土師器坏・小皿 13 点、石鍋１点、古代の須恵器蓋１点、近世の磁器椀１点、陶器皿１点である。

１は中世須恵器の片口鉢、ＳＢ１からの出土。形がいびつだが、片口鉢の口縁部と思われる。注ぎ口の破片。２は瓦器椀の口縁部である。ＳＫ 13 からの出土。３は土師器小皿の底部破片。ＳＫ４からの出土。底部は糸切り離しと思われる。４は土師器坏の底部破片。ＳＡ９からの出土。底部は糸切り離しと思われる。５は土師器小皿。回転ナデと思われる調整を施す。ＳＫ１からの出土。６は土師器小皿。底部は糸切り離しと思われる。Ｐｉｔ 47 からの出土。７は土師器小皿。底部は糸切り離しか。板状圧痕が認められる。ＳＢ１からの出土。８は土師器坏。底部は糸切り離しか。底部内面が盛り上がる。ＳＫ１からの出土。９は土師器小皿。底部は糸切り離し。Ｐｉｔ 57 からの出土。10 は土師器坏か。底部は糸切り離し。ＳＢ１からの出土。11 は土師器坏。表面の剥離が著しい。底部は糸切り離し。Ｐｉｔ 36 からの出土。12 は土師器坏。Ｐｉｔ 73 からの出土。13 は土師器坏。底部は糸切り離し。Ｐｉｔ 47 からの出土。14 は土師器坏。底部は糸切り離しか。ＳＫ 13 からの出土。15 は土師器坏。底部は糸切り離し。Ｐｉｔ６からの出土。16 は滑石製の石鍋の胴部破片。内面に底部の一部が残っているので、底部から胴部への立ち上がり部分と思われる。外面に縦方向のノミ削り痕が明瞭に認められる。内面には炭化物の付着も認められ、使用により平滑になっている。ＳＫ 13 からの出土。17 は須恵器蓋の破片。にぶい橙色を呈する。Ｐｉｔ 58 からの出土。古代の所産と思われる。18 は陶器皿の破片。色調は灰黄褐色。肥前Ⅳ期と思われる。ＳＫ 10 からの出土ではあるが、後世の流れ込みと思われる。19 は磁器椀の破片。わずかに染付けが残る。肥前と思われる。焼成は不良。ＳＫ９からの出土ではあるが、後世の流れ込みと思われる。

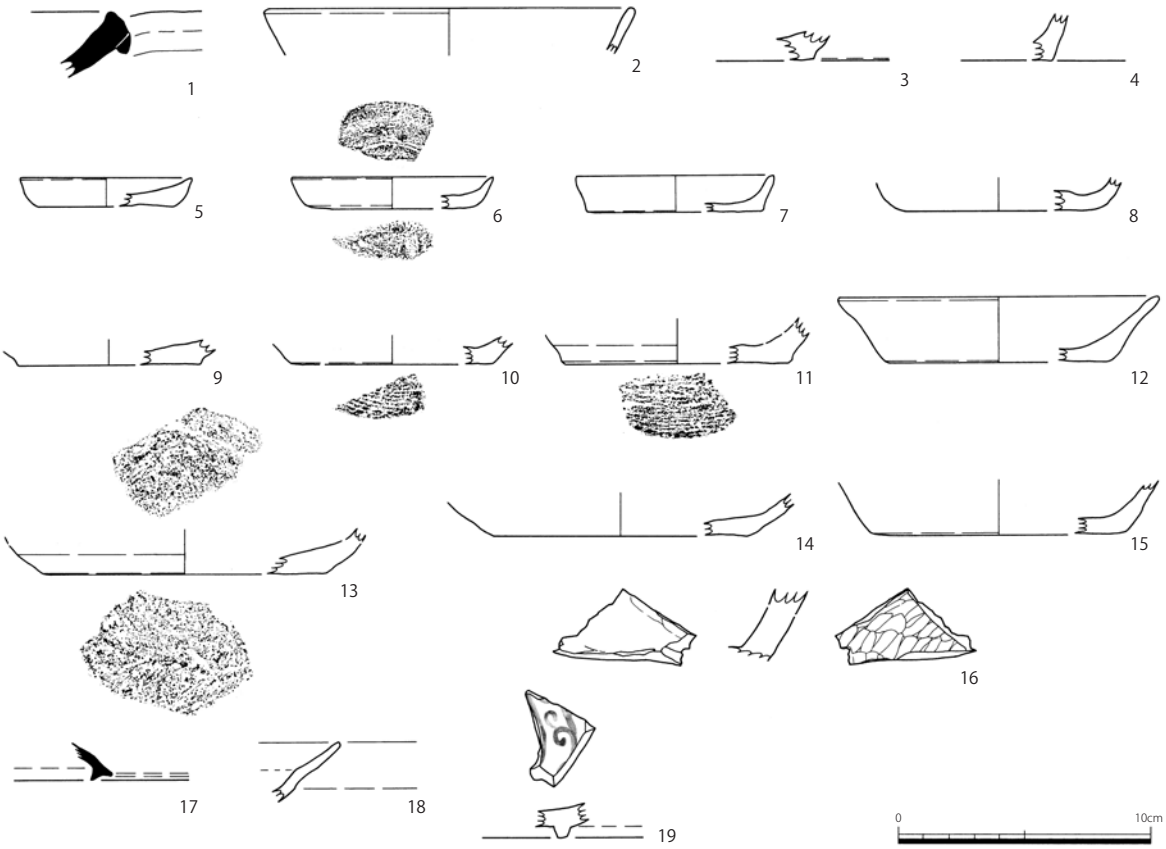
②遺構外（第 11 ～ 12 図）

遺構外から出土した遺物は、基本的にはグリッド単位、層位単位で取り上げたのは前述のとおりである。ここでは比較的遺存状態の良かったものを掲載した。

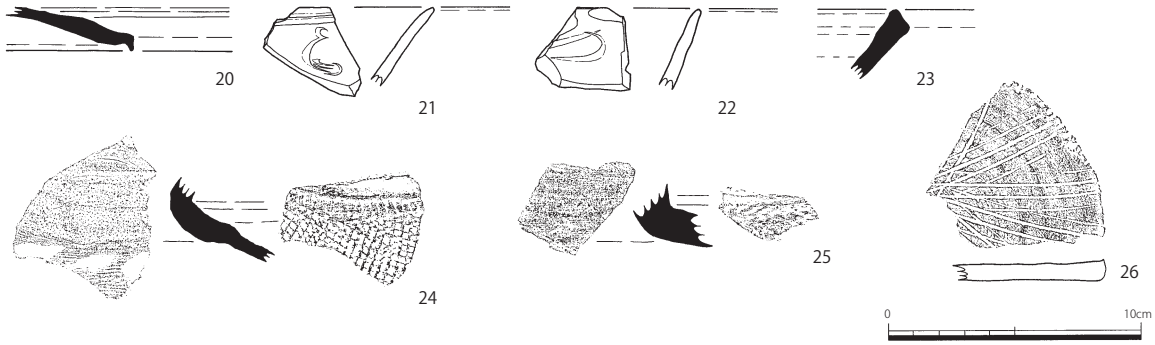
20 は須恵器蓋の破片。灰白色を呈する。回転ナデが残る。９世紀代、古代の所産と思われる。21 は青磁椀の口縁部破片。大宰府編年で龍泉窯系Ⅰ類。内面に雲文。22 も青磁椀の口縁部破片。大宰府編年で龍泉窯系Ⅰ類。内面に花文。23 は中世須恵器の捏鉢の口縁部破片。東播系と思われる。24 は中世須恵器の甕の頸部破片。外面には格子目のタタキ痕が明瞭に残る。内面には横方向のハケメ痕が認められる。いわゆる樺番城窯系のものと思われる。胎土はマーブル状を呈する。25 は中世須恵器の甕の頸部破片。外面には山形のタタキ痕が明瞭に残る。内面には横方向のハケメ痕が認められる。胎土はマーブル状。いわゆる在地系のものと思われる。26 は瓦質土器。擂鉢の底部破片。内面は回転ナデののち櫛による擂り目が施される。擂り目は一単位５条。27 は打製石斧。試掘・確認調査時に 22 トレンチから出土。ヒン岩製と思われる。28 は黒曜石製の打製石鏃。

【引用・参考文献】

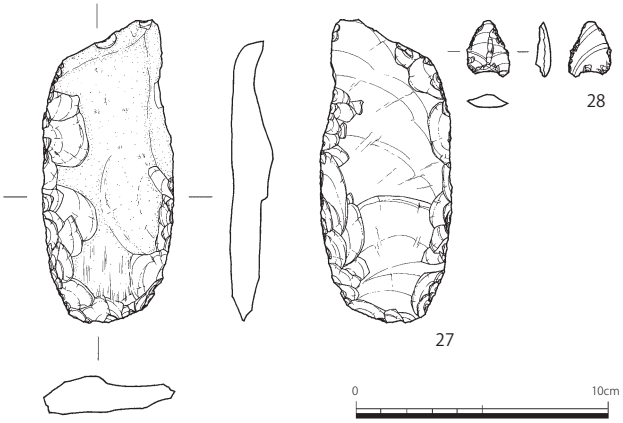
網田龍生　1994 「肥後における回転台土師器の成立とその背景」『中近世土器の基礎研究』Ｘ　日本中世土器研究会
太宰府市教育委員会　2000 『大宰府条坊跡ＸＶ』
中世土器研究会編　1995 『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
美濃口雅朗　1994 「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究』Ｘ　日本中世土器研究会
美濃口雅朗　1997 「樺番城窯跡の中世須恵器（１）」『肥後考古』第 10 号　肥後考古学会
美濃口雅朗　2007 「樺番城窯（熊本県）」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』



第 10 図　遺構内出土遺物実測図



第 11 図　遺構外出土遺物実測図 1



第 12 図　遺構外出土遺物実測図 2

第４表　遺物観察表

挿図No	報告No	出土地点	種類	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	（調）整形	色調（内・外）	胎土	焼成
10	1	SB1	中世須恵器	捏鉢			(2.6)	回転ナデ、ナデ・回転ナデ、ナデ	灰・灰	0.5～1.5mm 程度の砂粒（石英、長石など）を含む	良好
10	2	SK13	瓦器	椀	(14.2)		(1.9)	横方向のミガキか	灰白・灰	0.5～1mm 程度の砂粒を含む（石英、長石など）	良好
10	3	SK4	土師器	小皿			(1.2)	回転ナデ・回転ナデか、糸切り離しか	橙・橙	0.5mm 以下の微細な砂粒を多く含む（雲母粒子が目立つ）	良好
10	4	SA9	土師器	坏			(1.9)	回転ナデ・回転ナデか、糸切り離しか	にぶい橙・にぶい橙	0.5～3mm 程度の砂粒を多く含む（角閃石や雲母などの粒子が目立つ）	良好
10	5	SK1	土師器	小皿	(6.8)	(5.4)	1.2	回転ナデか・回転ナデか、糸切り離しか	橙・にぶい橙	0.5mm 以下の微細な砂粒を含む（雲母など）	良好
10	6	Pit47	土師器	小皿	(7.8)	(6.8)	1.3	回転ナデ、静止ナデか・回転ナデ、糸切り離し	橙・浅黄橙	0.5～1mm 程度の砂粒を含む（石英、長石など）	良好
10	7	SB1	土師器	小皿	(7.8)	(7.0)	1.5	回転ナデか・回転ナデか、糸切り離し（板目か）	橙・橙	0.5mm 以下の微細な砂粒を含む（石英・長石など）	良好
10	8	SK1	土師器	坏		(7.4)	(1.3)	回転ナデ・回転ナデ、糸切り離しか	にぶい橙・橙	0.5mm 以下の微細な砂粒を含む（長石や雲母など）	良好
10	9	Pit57	土師器	小皿		(7.2)	(1.0)	回転ナデか・回転ナデか、糸切り離し	にぶい橙・にぶい橙	0.5～1mm 程度の砂粒を多く含む（石英、雲母など）	良好
10	10	SB1	土師器	坏か		(8.0)	(1.1)	回転ナデ・回転ナデか、糸切り離し	橙・橙	0.5mm 以下の微細な砂粒を少量含む	良好
10	11	Pit36	土師器	坏		(9.2)	(1.8)	回転ナデ、表面ハクリ・回転ナデ、糸切り離し	にぶい橙・にぶい橙	0.5～3.5mm 程度の砂粒を含む（石英・長石など）	良好
10	12	Pit73	土師器	坏	(12.6)	(9.0)	2.6	回転ナデ・回転ナデ、不明	橙・橙	0.5～1mm 程度の砂粒を含む（長石、雲母など）	良好
10	13	Pit47	土師器	坏		(11.2)	(1.8)	回転ナデ、静止ナデか・回転ナデ、糸切り離し	淡橙・橙	0.5～1.5mm 程度の砂粒を多く含む（石英、長石を多く含む）	良好
10	14	SK13	土師器	坏		(10.0)	(1.7)	回転ナデか・回転ナデか、糸切り離し	浅黄橙・にぶい橙	0.5～1mm 程度の砂粒を含む（雲母、長石や黒色砂粒を若干多く含む）	良好
10	15	Pit6	土師器	坏		(10.0)	(2.2)	回転ナデ・回転ナデ、糸切り離し	橙・橙	0.5mm 以下の微細な砂粒を含む（石英、雲母など）	良好
10	16	SK13	石製品	石鍋			(3.0)	ノミケズリ・ノミケズリ			
10	17	Pit58	須恵器	蓋			(1.5)	回転ナデ・回転ナデ、横ナデ	にぶい橙・にぶい橙	0.5～1mm 程度の砂粒を含む（石英、長石など）	やや良
10	18	SK10	陶器	皿			(2.4)	施釉・施釉	灰黄褐・灰黄褐	密	良好
10	19	SK9	磁器染付	碗			(1.5)	施釉・施釉	灰白・灰白	密　若干黒色粒子が見える	不良
11	20	上段南端トレンチ	須恵器	蓋			(1.7)	回転ナデ、静止ナデ・回転ナデ、静止ナデ、回転ヘラケズリ	灰白・灰白	0.5～1.5mm 程度の砂粒を含む（石英、長石など）	良好
11	21	表土	青磁	椀			(3.1)	施釉・施釉	灰オリーブ・灰オリーブ	精緻	良好
11	22	表土	青磁	椀			(3.2)	施釉・施釉	明緑灰・緑灰	密	良好
11	23	G-3	中世須恵器	捏鉢			(2.8)	回転ナデ・回転ナデ	灰白・灰白	0.5～1mm 程度の砂粒を多く含む（石英、長石が多い）	良好
11	24	表土	中世須恵器	甕			(3.3)	横ハケメ、回転ナデ・格子目タタキ、回転ナデ	灰・灰	0.5mm 以下の微細な砂粒を多く含む（石英、長石など）	良好
11	25	F -8	中世須恵器	甕			(2.5)	横ハケメ、回転ナデ・山形タタキ	灰・青灰	0.5mm 以下の微細な砂粒を多く含む（石英、長石など）	良好
11	26	A-5	瓦質土器	擂鉢			(0.9)	回転ナデのち擂目・未調整	灰白・灰白～黄灰	0.5～1mm 程度の砂粒を多く含む（長石、雲母、角閃石を多く含む）	良好
12	27	試掘トレンチ(T-22)	石器	打製石斧	長さ 12.0	幅 5.2	厚さ（1.9）				
12	28	排土置場	石器	打製石鏃か	長さ 2.2	幅 1.7	厚さ 0.7				

第４章　総括

山下遺跡は九州横断自動車道延岡線建設工事に伴って新たに発見された遺跡である。道路建設に伴い今回発掘調査した面積は約 1,700㎡である。試掘・確認調査によりすでに解っていたことだが、土地の改変等によって、大きく削平を受けていたため、遺存状況はいいものではなかった。

検出した遺構は、掘立柱建物跡、柵跡、溝状遺構、土坑、ピットである。いずれの遺構も覆土は黒褐色ではあるが色調に若干の違いが認められた。各遺構は発掘調査区の北西側に集中する傾向にあるが、これは、当時の生活域が北西側にあるか、削平により南東側が消滅していることによるものと思われる。遺構の向きは、掘立柱建物を中心に東西南北を意識していることはほとんどなく、わずかに柵跡で方位の意識が看取できる程度である。溝状遺構については、明らかに現在の地形、区画を意識している。

北西側では多量のピットを検出したが、その中から、現地で掘立柱建物跡や柵跡と判断できたものは、わずかであった。現地調査時に詳細な検討を行えば、もう少し遺構数も増加するものと思われ、悔やまれてならない。

出土した遺物は、点数も非常に少なく、網コンテナで一箱に満たないものであった。遺物自体の残りも非常に悪く、摩滅しているものが極めて多い。また、器形復元できるものも少なかった。

縄文時代の石器、古代の須恵器、近世の陶磁器も数点含まれるが、わずかながら出土した遺物の多くは、中世の所産と考えられる。底部糸切り離しの土師器坏・小皿が比較的多く、熊本県内でのこれまでの発掘調査事例や研究結果に照らして、概ね 12 世紀後半から 13 世紀前半に収まるものと考えている。わずかに出土した龍泉窯系Ⅰ類青磁椀の破片、須恵器の捏鉢や擂鉢の破片、いわゆる樺番城系と推測される須恵器の甕の破片、石鍋の破片等も土師器坏・小皿と大きくかけ離れた時期のものではないと思われる。

以上、遺構の検出状況と出土した遺物の様相から考えると、山下遺跡は 12 世紀後半から 13 世紀前半の時期の遺跡と思われる。しかし、前述のとおり遺構の残りが非常に悪い。遺構内からまとまって遺物が出土することはなく、小破片が１点、２点出土するという状態であるため、なんとも歯切れの悪い報告をせざるを得ない。

今回は広大な山下遺跡の一部を発掘調査したに過ぎない。今後の周辺での調査事例の増加を待ち、改めて検討したい。

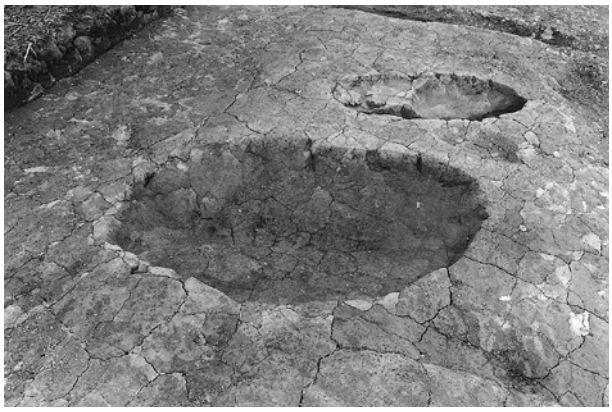
【引用・参考文献】

網田龍生　1994 「肥後における回転台土師器の成立とその背景」『中近世土器の基礎研究』Ｘ　日本中世土器研究会
熊本県教育委員会　1978 『高橋南貝塚』
熊本県教育委員会　2009 『隈府土井ノ外遺跡』
熊本市教育委員会　2007 『二本木遺跡群Ⅱ』
熊本市教育委員会　2009 『二本木遺跡群ＸⅢ』
太宰府市教育委員会　2000 『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』
中世土器研究会編　1995 『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
出合宏光　2000 「九州南部における平安時代の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』ＸＶ　日本中世土器研究会
出合宏光　2004 「九州南部における１１～１４世紀の土器」『中近世土器の基礎研究』ⅩⅧ　日本中世土器研究会
文化庁編　2010 『発掘調査のてびき』同成社
美濃口雅朗　1994 「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究』Ｘ　日本中世土器研究会
美濃口雅朗　1997 「樺番城窯跡の中世須恵器（１）」『肥後考古』第 10 号　肥後考古学会
美濃口雅朗　2007 「樺番城窯（熊本県）」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』

写　真　図　版

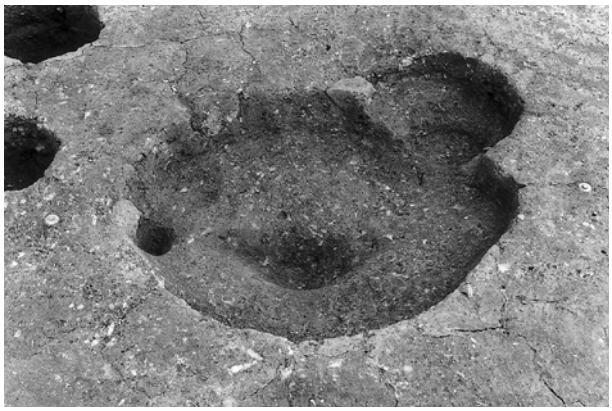
図版１　発掘調査状況（南から北）

図版２　SB1,SA5完掘状況（北東から南西）

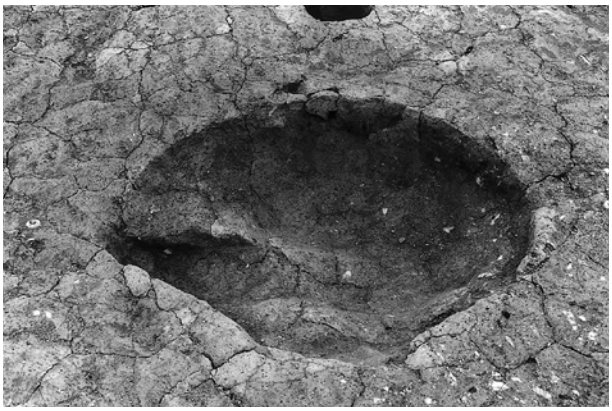


図版３　SK1・7・8完掘状況（西から東）

図版４　SK2完掘状況（北から南）

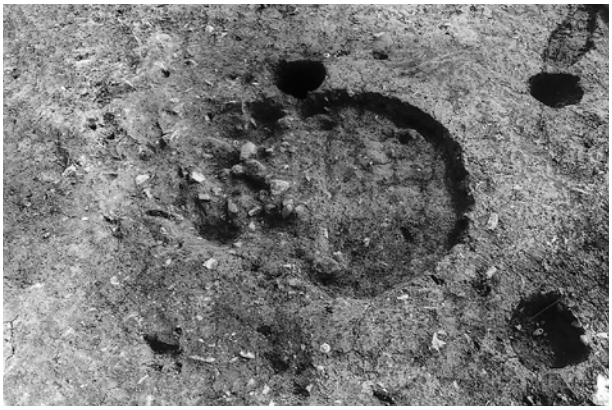


図版５　SK3完掘状況（北西から南東）



図版６　SK4完掘状況（北東から南西）

図版７　SK5完掘状況（北東から南西）



図版８　SK6完掘状況（北から南）

図版９　SK9完掘状況（南西から北東）

図版10　SK10完掘状況（南西から北東）

図版11　SK11完掘状況（北西から南東）

図版12　SK12完掘状況（西から東）

図版13　調査区完掘状況（南東から北西）

図版14　調査区完掘状況（北西から南東）

図版15　調査区完掘状況（北西から南東）

図版16　調査区完掘状況（北から南）

図版17　SK1出土遺物①

図版18　SB1出土遺物①

図版19　Pit47出土遺物①

図版20　SK4出土遺物

図版21　Pit57出土遺物

図版22　SA9出土遺物

図版23　Pit36出土遺物

図版24　SB1出土遺物②

図版25　Pit47出土遺物②

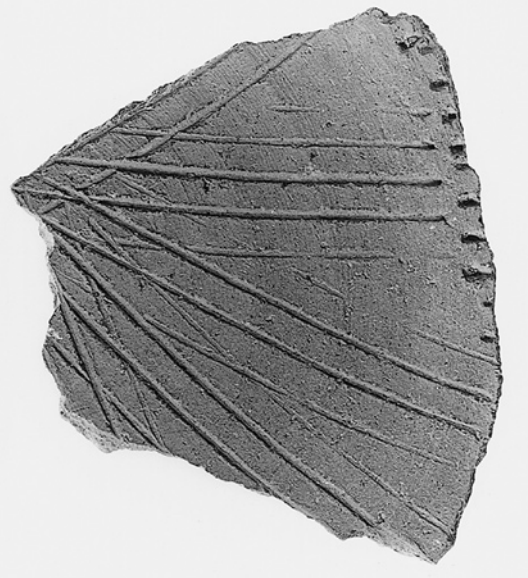
図版26　SK1出土遺物②

図版27　SK13出土遺物①

図版28　Pit6出土遺物

図版29　Pit73出土遺物

図版30　SK13出土遺物②



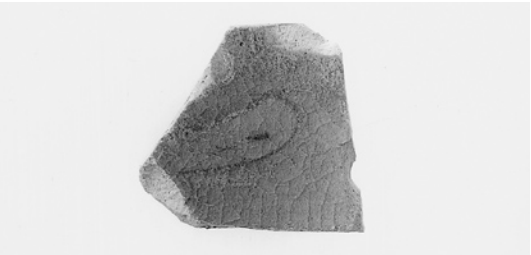
図版31　遺構外出土遺物①

図版32　遺構外出土遺物②

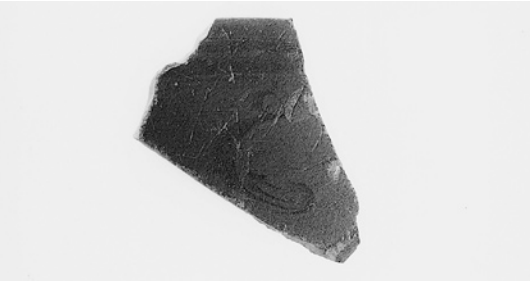
図版33　遺構外出土遺物③

図版34　SB1出土遺物③

図版35　遺構外出土遺物④



図版36　遺構外出土遺物⑤

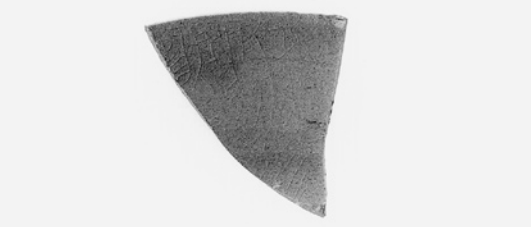


図版37　遺構外出土遺物⑥

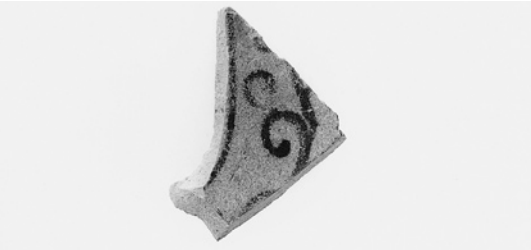
図版38　SK13出土遺物③

図版39　遺構外出土遺物⑦

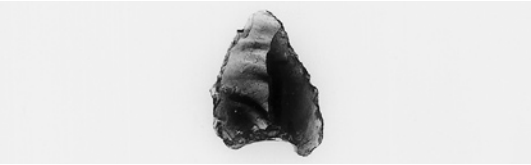
図版40　Pit58出土遺物



図版41　SK10出土遺物



図版42　SK9出土遺物



図版43　遺構外出土遺物⑧

図版44　遺構外出土遺物⑨

あとがき

山下遺跡の発掘調査報告書が完成しました。

発掘調査から整理報告書作成にあたっては、多くの方々にお手伝いいただきました。

平成２０年の現地での発掘調査も、平成２２年の文化財資料室での整理作業も、なぜか同じようなすさまじい酷暑の中でおこなわれました。

そのような厳しい環境の中で、本報告書を刊行することができたのは、皆様のおかげであると考えております。本当にありがとうございました。

ここにお世話になりました皆様のお名前を記して、感謝の意を表したいと思います。

発掘調査

上野宏二、杉浦千枝子、田畑エイ子、中村　強、廣常維則、松岡　洋、森上美和子、守田元光、山下民生

（以上、敬称略・五十音順）

整理報告書作成

浦田和恵、河津洋伶、木村美和子、中島ひろみ、中村公光子、西坂和美、山内洋子、山下千栄子

（以上、敬称略・五十音順）

平成２３年春　編集記

報告書抄録

ふりがな	やましたいせき
書名	山下遺跡
副書名	国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第２６０集
編著者名	坂井田　端志郎、水上　公誠、梅田　亜耶
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862－8609　熊本県熊本市水前寺６丁目１８番１号　TEL096－383－1111
発行年月日	２０１１年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘 期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡 番号					
山下遺跡（やましたいせき）	熊本県（くまもとけん） 上益城郡（かみましきぐん） 御船町（みふねまち） 大字高木（おおあざたかぎ） 字下前田（あざしもまえだ）	441	138	32° 44′ 32″	130° 48′ 16″	20080701 ～ 20080925	1,700㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山下遺跡	集落	中世	掘立柱建物跡 柵跡 土坑 溝状遺構	縄文石器、古代須恵器、中世土師器・須恵器、青磁、陶磁器	

要　　約

山下遺跡は九州横断自動車道延岡線建設工事に伴い記録保存を目的として発掘調査された中世の遺跡である。

土地の改変等により、遺存状況はいいものではなかった。

掘立柱建物跡、柵跡、溝状遺構、土坑、ピットなど複数の遺構を確認した。

出土した遺物点数は非常に少ないが、出土遺物の大半は中世の所産と考えられる。熊本県内でのこれまでの発掘調査事例や研究結果に照らして、概ね 12 世紀後半から 13 世紀前半に収まるものと考えられる。

平成２３年３月３１日　印刷
平成２３年３月３１日　発行

山　下　遺　跡

熊本県文化財調査報告第２６０集
国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

編集・発行　熊本県教育委員会
〒 862-8609　熊本市水前寺６丁目１８番１号
印刷　（有）ソーゴーグラフィックス

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 260 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 山下遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日